明治三十八年八月二十二日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百八拾九號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雑誌

第百八十九號目次

會員諸姉に告ぐ

日露兩國の交砲火を以て相酬ゆるに至りてよりはやも十月あまりとはなりぬ。國運めでたくして戰はつねに我に利あれども其前途は尚はるかに遠し國をこぞつて共に力を致さむこと國民たるものゝつとめなれば國の爲め親をすて妻子をすてゝ進んで難にあたれる同胞の上を深く思ひやりて自らの力の及ぶかぎりはこれ等の人々の爲めに盡さむことはまだ多く言葉を要せざる處なり然りながら世界に數多からぬ強大國を敵として戰ふことにしあれば一と度戰ふ毎に我同胞の傷き斃るゝものゝ甚だしきは萬を以て數ふるに至らん是が爲め本國に送らるゝ傷病者がいたでになやみて呻吟するさまのいかばかりかなさけなかるべき本會もかねてこれ等の人々の爲め慰の一品たりとも送らばやと思ひ居たる折柄近頃澁谷なる豫備病院にては病者に尤も必要なる帽子の夥しく不足せるよしを聞きければ是を寄送するとは誠に本會の相應しき事業と思ひ早速臨時會を開きて評議すべかりしも至急を要するの際巳むなく役員會議にて種々評議の末本會基本金中より金貳百圓を出して同社へ寄附したり然りながら尚戰況の進むと共に傷病者も益々増加することなればこれ誠に九牛の一毛にも若かざるを覺ゆればひろくこれを會員諸姉にはかり一個たりとも多くこれが不足を補はむと欲してゝに左の定めを設く希くは諸姉幸ひに多少の同情をよせられむ事を（つゞく）

一、本會の傷病者に對する帽子寄送は澁谷豫備病院とす

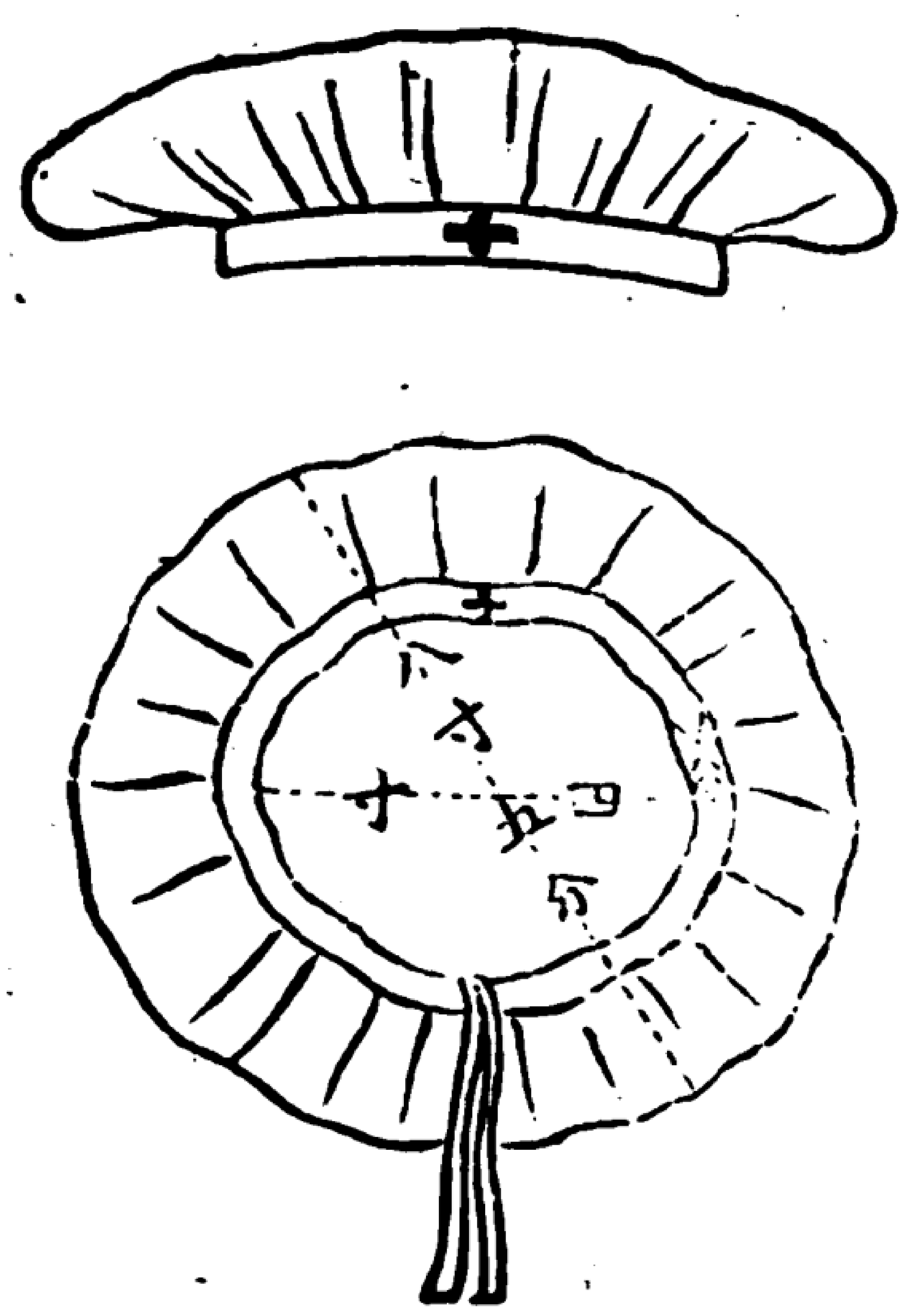
二、寄贈者は（現品、現金、）何れとも御随意本會事務所（牛込區上宮比町八番地）迄御差出しあれば本會は直ちに之を取纏めて寄贈の運びをなす

三、寄贈の金品に對しては本會事務所より受領證を交附すべきも豫備病院よりの受領證は一と纏めにしたるものなれば一々交附せず

四、本會は戰爭終局まで此事業を繼續し何時にても多少に拘はらず其取扱を快諾す

五、寄送者諸姉の人名其他右に關する要用の件は本會雜誌を以て報告す

六、寄送の帽子は左の雛形により調製の事



調製代價は本フランネル綿フランネルの別により多少の相違はあれども凡廿錢以上卅五錢位なり

明治三十七年十一月

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらずされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頓日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を纂記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ共賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するを得●第四條　入會の者には姓名族籍住所及び會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會の者には會員證を交付す（交付手續は[illegible]に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす　終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り[illegible]●第七條　[illegible]會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會に通知せらるべし但既納の會費は返戻せず●第九條　死亡したる會員は[illegible]●第十條　本會に左の役員を置き其中より總裁一名を推戴す　總裁一名　皇族の妃殿下に奉戴す　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の[illegible]

總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　[illegible]

[illegible]但衣服は總て質素たるべきこと[illegible]

[illegible]本會々員十名以上發起者あるときは[illegible]支會を設立することを得[illegible]其規則[illegible]

[illegible]本會會計は一ヶ年毎に[illegible]

[illegible]三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し[illegible]會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を雜誌に登錄し[illegible]報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付す[illegible]べしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）[illegible]京府下に限り毎月集金人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子
仝　石川貞子

評議員　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　穗積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悅子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武姉技子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きく子
仝　相馬陸子
仝　男爵夫人　南部展子
仝　中濱芳子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸　澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會に於て講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　理學博士　ドクトル　醫學士　ドクトル　醫學博士　理學博士　內科ドクトル　醫學士　醫學士　醫學士　貴族院議員　醫學博士　法學博士　東京　醫學博士　新潟　小兒科　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　步兵中佐　醫學博士　醫學博士

●入澤達吉君　●飯島魁君　●伊澤信平君　●色川圀士君　●伊東祐彥君　●飯盛挺造君　●伊藤隼三君　●石川千代松君　●岩井禎造君　●石原久君　廣瀬雄一君　●石原喜久太郎君　濱尾新君　●濱田玄達君　●鳩山和夫君　秋原樹四郎君　●芳賀榮二郎君　●長谷川泰君　●長谷川一詮君　小原卿之君　●岡田榮吉君　●林春雄君　●佐藤達次郎君　●緒方正規君　●堀內文次郎君　●土肥慶藏君　●岡田和一郎君

醫學博士　醫學博士　醫學博士　藥學博士　一等藥劑官　醫學士　男爵　ドクトル　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　法學博士　醫學博士　新潟　男爵　醫學士　醫學士　御歌所長　醫學士　藥學博士　醫學士　藥學博士　醫學士　醫學士　醫學士　三等軍醫正　醫學士　一等軍醫　台灣赤十字　理學博士　醫學博士　男爵　醫學博士　醫學博士　醫學博士

●大澤謙二君　大內秀治君　●大澤岳太郎君　●恩田重信君　若杉喜三郎君　●加藤弘之君　●加藤照麿君　●賀古鶴所君　●河本重次郎君　●片山國嘉君　●川上雅儀君　●櫻井郁一郎君　●金杉英五郎君　●笠原光興君　●院澤光德君　●高橋順太郎君　●高山紀齋君　●高木兼寛君　高木豐三君　●田代義德君　●田代亮助君　●高崎正風君　竹中成造君　●高田畊安君　●高橋辰五郎君　●丹波敬三君　高橋貞頼君　●田原良純君　●田村光顯君　●久保猪之吉君　●米山彥郎君　●星野篠光君　●宮本叔君　●横井忠民君　辻新次君　●坪井正五郎君　●長與稱吉君　南部愛男君　●長井長義君　●中濱東一郎君

醫學士　醫學士　海軍中佐　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學士　醫學士　醫學士　醫學山　醫學士　衛生技師　ドクトル　ドクトル　盲啞學校長　廣島　醫學士　東京　衛生局長　元帝國大學教授　醫學士　文部省視學官　醫學士　醫學士　子爵　前軍醫總監　ドクトル　ドクトル　高崎醫會長　產科婦人科　ドクトル　醫學博士　醫學士　醫學博士　ドクトル　高崎　醫學博士　醫學士　醫學士　ドクトル

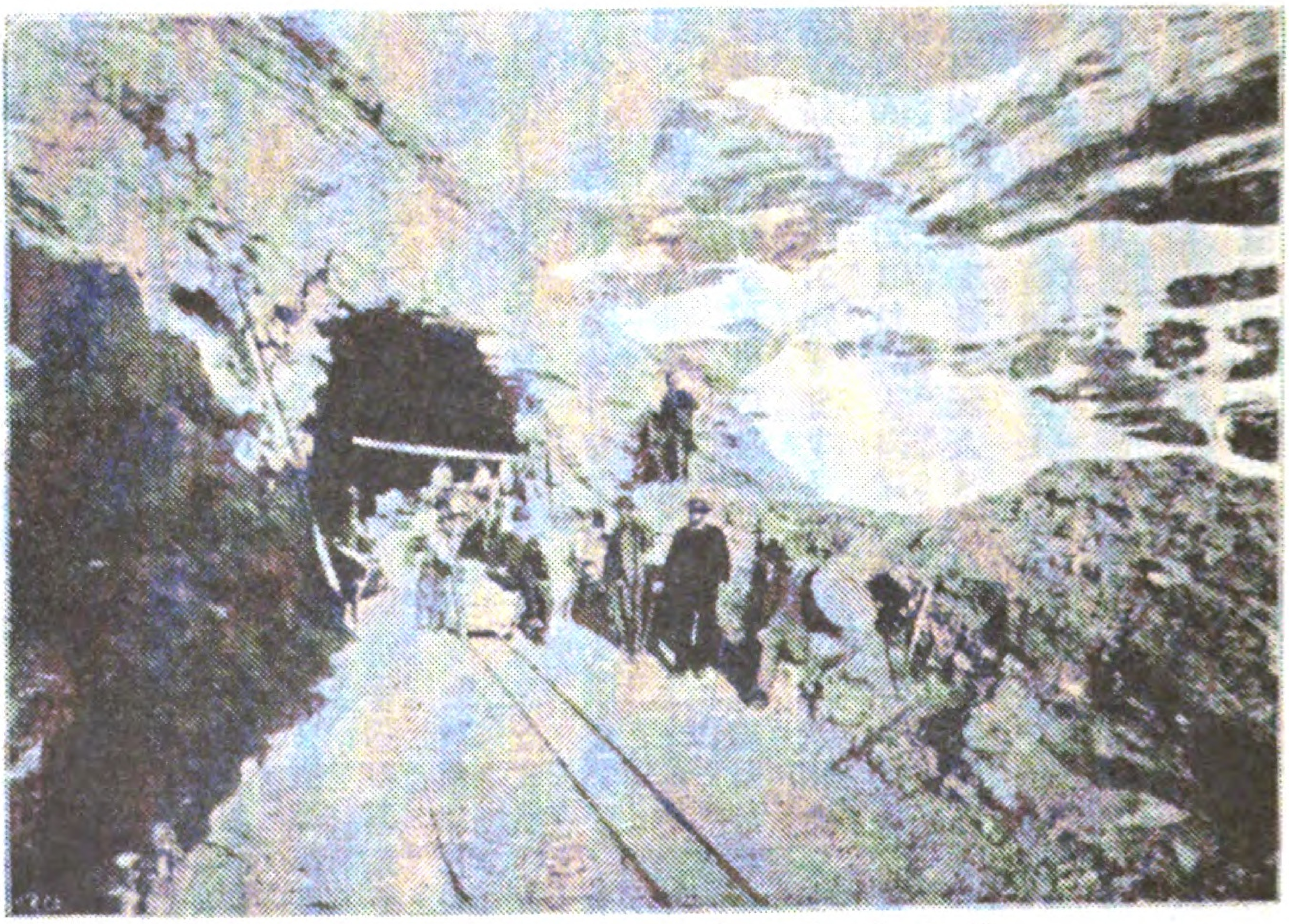
●黑川玄通君　●栗木廣務君　●小笠原長生君　村松紙三君　●隈川宗雄君　●栗本東明君　●山田鐵三君　●山田弘倫君　●山根正次君　山川春二君　●丸茂文良君　●丸山長四郎君　●松山陽太郎君　●小此木信六郎君　●小西信八君　小泉官君　●古川榮君　布施正嚴君　●後藤新平君　●エ、ベルツ君　●甲野棐君　●吉川勇吉君　●吉田勝作君　●寺田穗尾君　秋元腴萌君　●足立寬君　●新井吉芳君　●富士川游君　土谷全次君　●水原衛君　●久保田誠麿君　●佐々木政吉君　●淺田次君　●朝倉文三君　●朝山義六君　秋田聰太郎君　●佐藤三吉君　●櫻井郁二郎君　●佐藤恒久君　佐伯理一郎君

醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　小兒科專門　理學博士　醫學博士　醫學博士　伯爵　醫學士　醫學博士　ドクトル　ドクトル　醫學士　一等軍醫　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ミセス　ミセス

●榊順次郎君　●榊保三郎君　●櫻井恒次郎君　●桐淵鏡次君　●北村精造君　●北島多一君　●北川乙二郎君　●木下正中君　●北島小太郎君　●北里柴三郎君　●三浦守治君　●三浦謹之助君　●宮本仲君　●箕作佳吉君　●三島通良君　●三宅秀君　●三輪信太郎君　土方久元君　●島村俊一君　●弘田長君　●日高昂君　●須田卓胤君　●澄川德君　●木村德衛君　森林太郎君　●征川三男三君　●波多野惇君　●呉秀三君　●ヒウース　●コーツ



米國貴賓タフト卿とアリスローセベルト孃



瑞西國奇勝「ユングフラウ」登電車 ([illegible])

(雜輯參照)

婦人衞生雜誌第百八拾九號
（明治三十八年八月二十日發行）

名家演壇

ペストに就て（於本會）

醫學博士　北島多一君演說
佃速記事務所員速記

私は今日本會の御招きに依りまして、貴婦人方にペストに就て講演をしまする榮譽を得ました、私は元來訥辯の方でありまして、且つ御婦人方の前で演說をした經驗がありませぬからして、成たけ平易に遣らうと思つて居りますが或はむづかしい言葉使ひ又は無作法の言葉を用ゐることがあるかも知れませぬから、さう云ふ所は幾重にも御容赦を願ひ置きます。

本題に入りまして申上げたいのは現今吾々が住居つて居る此東京は非常なる危險な位置に立つて居る、それは既に新聞紙上に於て皆さんも御存知でございませうが、深川にペストが此四月以降出來て來た、尤も數は今日まで僅十三名ばかりでございまするが、其病氣の蔓延と云ふものは今日までの檢査の成績に依て見ますると隨分擴まつて居る、隅田川の向岸の深川は殆ど病氣の巣になつて居る、且つ極く最近の調に依りますと、本所の龜澤町邊までも病毒が擴がつて居るのです、さう云ふ風にペストは段々次第々々に此東京の市街を襲うて來る模樣でありまして、もう少ししますると、大川を渡つて此方の神田であるとか日本橋であるとか云ふ方角の方へも遣つて來るやうな傾向があるです、デ是は實に嘆はしい事でありまして、今や日露戰爭の時に當りて戰は申分のない勝利を得て非常な賞讃を得て居るけれども、さて文明の一代表たる衞生の事ではどうも誇ることが出來ない、東京と云ふ日本第一の都會、その第一の帝都に於て斯う云ふ風にペストが流行つて居る、是は實に面目ない次第であらうと思はれる、

一體ペストは數百年以前は隨分流行つたけれども暫く忘れられて居つた、然るに彼の香港に十年ばかり前に突然と起つて來た、其時分には御存知の御方もありませうが、東京其他日本全國の人々は非常に驚いた、ペストと云ふ是まで分らない、非常な恐い病氣が流行て來た、何でもペストと云ふものは一度擴がると云ふと、殆ど人が皆死絶へるさうであると云ふて非常に驚いた、それは單り日本ばかりではありませぬ、世界の人が皆驚いた、殊に歐羅巴では非常に驚いた、もう自分達が直ぐにでもペストに罹るやうに、併も人類がみんな滅亡して仕舞ふやうに、此文明の榮華も全然破滅されるではないかと云ふ程に驚いた、それは無理はないので、日本では餘り經驗がありませぬてしたけれども、歐羅巴の人は歴史上ペストと云ふものは恐いと云ふ事を知つて居る、ペストが十四世紀の頃非常に流行つたことがある、其時分には其時の文明諸國と云はれて居つた、伊太利とか、希臘とか云ふ所はみんな犯された、且つ甚だしい時には其時分知れ渡つて居つた總ての國を犯して北極の端にあるグリンランドと云ふ所までも押及ぼした、或人の書いた本に依て見ますると、其時の死んだ人の數が二千五百萬人あつた、則ち其時分に生きて居つた人口の四分の一は此ペストの爲めに死んだと云ふことであります、さう云ふ風に非常な慘害を蒙つて居りますから、歐羅巴ではペストの起つたと云ふ報知を得まして非常に驚いたは無理もない、其出來るだけの手段を講じ非常なる大騷ぎをやつた、日本でも始めて大阪とか、或は神戸とか、和歌山とか、さう云ふ所へ入つて來た時は非常な勢で以てその豫防を講じて居つた、然るに人と云ふものは、何時でも同じ事を聞いて居ると段々耳に馴れて仕舞ひ、さう感じがなくなる、此頃では新聞にペストと云ふ字があつても、ペストの事かと云ふので餘り人が氣を注けて讀まない位になつて仕舞つたですが、是は實に非常なる危險な話であつて、ペストと云ふ病氣の恐ろしいことは昔も今日も決して變り

はない、それだのにさう云ふ風にペストはさう恐くないと云ふやうに考へて居ると云ふことは、非常なる危險のことゝ思はれる、又少し物の分つて居る人でも、中には其ペストをさう恐がらなくなつた、なあに日本へ是まで流行つた例に依づて見ても、そんなに擴まらぬぢやないか、大阪へ入つて來たつて暫くの間に撲滅するとが出來た、深川はあんなに流行つて居つても漸く今までに僅か十人かそこらの人が罹つたばかりではないか、外に是位の病氣は幾らもある、何も恐くないと云ふやうな感じをして居る人があるのです、併し是は餘程考が間違つて居るのでありまして、一體拋棄つて置いたならばどうなるかと云ふことを考へないからであります、今東京市でも一生懸命に金を遣ひ、人を使つて、非常な骨折をして撲滅しやうと掛つて居る、それだからして漸く現在位の有樣で以て其蔓延を防ぐことが出來て居る、若し之を其儘にして置きましたならば其結果は實に驚くべき慘憺たるものであらう、即ち昔十四紀

あたりに流行つた通り東京の人口の四分の一位は矢張り死んで仕舞ふであらうと思はれるです、其例としては最近に起つた香川のペストなどが非常に好い例である、香川縣の綾歌郡の王越村と云ふ所で以て此頃ペストが起つた、それはどうして起つたか調査中でありますから其原因は分りませぬが、併し恐らく神戸とか大阪とか云ふ所へ出稼に往つて居つた者もありますから、或はさう云ふ者が病氣を持つて入つたものと思はれる所で五月の末にどうも妙な病氣の患者が出來て二人三人急に死んで仕舞つた、是は可怪しいと云ふので、調べたけれども何とも判斷がつかない、其中に段々患者が殖へて、さうしてペストに似て居ると云ふので、內務省からも人が往き、注意して調べて見ました、結果ペストであると云ふことが分つた、其村と云ふのは僅か五百戶ばかりの小村でありますが、其村にすつかりで三十何人と云ふ患者が僅か二週間と經たない中に出來て多くは死んで仕舞つた、且つ日々新患者が出て此村は皆留さ

れるかと思ふ位にひどくなつて來た、さう云ふ風に打拋つて何にもしない所に於ては非常な勢で蔓延して行く、所がペストと云ふ事が分りましてから現今ペストの豫防として知つて居る最良の方法を殘りなく施しまして、充分な豫防をした所が直ぐ撲滅することが出來て、此頃は新患者と云ふものは一人も出來ないやうになつたです、さう云ふ風に手段を講じて充分にやりますと今申します通り充分に撲滅することが出來るのですが、拋擲つて置きますると云ふと非常なことになる、此例でもペストは昔も今も變らずに恐ろしいものであるが今日は學問の進歩した爲めにはやく撲滅させることが出來ると云ふとが分ります、デ東京でも固より當局者はそれ〳〵骨折つて豫防を講じて居りますから不日全滅する樣になりましようが、どうかはやく安心したいものである、此ペストの流行つて居りまする際にあなた方御婦人も亦ペストはどう云ふ病であるか其傳染するのはどうして來るのかを一通御解りになるが必要である、夫だから是から先づ其ことを御話をしてどう云ふことに注意せねばならぬかを申上ようと思ふのであります。

前申しました如くペストは大變怖しい病氣であります、學問の未だ充分發達しない時にはどうして防いで好いか分らなかつた、唯だ恐い恐いて以て丁度日本へ始めて來た時のやうな工合に、唯だ吃驚して居るばかりて、其豫防方法を知らない、さう云ふ時は固より恐いのでありまするが、今日は學問の進歩に依つて殊に細菌學、即ちバクテリアの學問が大變進歩して、ペストの原因と云ふバクテリアを顯微鏡で見ることが出來るやうになつた、且つそれを人工的に試驗管の中で培養して種々の試驗をすることが出來る樣になつたそれからして吾々はペストの病源菌の性質がよく分り、又進んではどうして死ぬてあらうとか、或はどう云ふ風にすれば人の身體の中で以て殺すことが出來るとか、種々の研究をすることが出來るやうになつた、斯う云ふ風に總て病氣と云ふ

ものはペストばかりではない、何でも此病源菌を吾く々が自由に扱つて、それを以て研究の出來る樣になれば、もうその病氣は殆ど人の爲に支配せられて仕舞つたのです、即ち豫防することも出來れば治すことも出來る、何でも人の思ふ通りにすることが出來る、さてペストの病源と云ふものはどう云ふものであるかと云ふのに、それは◯斯う云ふ細長いバクテリアである、所で是がどれ位の大きさがあるかと云ふのに千倍位の顯微鏡で見まして丁度留針の頭の半分位しかない、だから極く小いものである、赤又は青い色素で染めて見ますと兩方の端が◉斯う云ふ風に染まつて眞中の所は染らない、バクテリアの中には動くものもありますけれども是は動がない方である、斯う云ふ細菌がペストの病人の身體の中にある、さうして、身體の中から外へ出て着物だとか器物などに付いて、それからして又他の人に傳染つて病氣を惹起す事が出來る、細かい事は一々申しませぬですが、我々にとりて都合のよきことは、ペストは割合に抵抗力が弱いことである、譬へば熱をあてるとか光線に當てるとか、消毒藥に觸れるとかすると容易に死ぬのである、是が大變仕合せなんで御存知の肺病の原因の結核菌と云ふバクテリアは大變抵抗力が强い、即ちなか〱容易に死なない、乾いとも死ない、熱を加へても餘程高い熱でなければ死ないと云ふ退治することが困難な菌でありますが、此ペストの方は仕合せに抵抗力がさう强くない、例之熱に就て申しましても、六十度の熱で三十分も熱しますればもう死んで仕舞ふ、六十度と云ふと手を入れて見るに長く入れてをけぬ程の溫で熱湯ではないが其位の湯ならば三十分位で死んで仕舞ふ、其外光線などに合はしましても、太陽の當つた處へ一日も出して置けば死んで仕舞ふ、乾燥させてもよく乾けば四日か五日で以て大抵は死ぬ、さう云ふ風に總ての抵抗に弱いのですからして割合に始末が好いのです。

此ペストの菌はどうして吾々の身體の中へ入つて病

氣を起すか、一體ペストに限らず種々の病源菌が身體に入るのに種々の道から來ます、第一に、皮膚から入つて來るものがある、健康な皮膚からは入つて來ることはまづありませんが、皮膚に傷があるとそこから入つて來る、或は傷がなくても極く小さな人の目にも入らない位の擦傷だとか、毛孔だとか、さう云ふ所からも入つて來ることが出來る、是は外のことですけれども例として一ッ二ッ附加へて御話致し置きまするど、譬へば傷をして膿む腫物が出來る、此膿むと云ふのは矢張り或黴菌が入つて來て膿を造るのである、其他丹毒と云ふのもある、丹毒と云ふは傷をしてそこから赤くなつて腫れる、非常に熱が出て來る、能く顔などに來て顔がすつかり腫れて眞赤になつて隨分惡い病氣である、之も矢張り皮膚から來る病氣です、其外殊に注意して置かなくてはならないのは破傷風である、此破傷風はどうして起るかと云ふと是は腐つた竹だとか木だとか、或は古い金釘と云ふやうな物て以て刺すと宜く起る、是は餘り廣い傷には起らないで深い傷に起る、踏貫いて足の裏へ釘が刺さつたと云ふ場合などに多く起る、釘の刺した孔は固より小さいからして直ぐ癒へて仕舞ふ、夫だから大低人は傷は癒へたと思つて安心して居ると七八日も經つと其傷とは全く緣のない腮の處が動かなくなつて來て、口を開けるのにどうも開け惡い、物を喰はふとしても口が充分開かないものだから喰惡い、これが病の初めであつて、それから段々病氣が重つて手も足も突張て仕舞ひ、口は少しもあかなくなつて、少しの刺戟があつても痙攣を起して其度に非常に痛んで苦み呼吸がとまる位で見るに堪えぬ位酷い病である是は珍らしい病氣でありますけれども子供などが惡戯したり或は偶然の怪我から後とて能く起る事で、注意して居りませぬと云ふと其爲に非常なる事になる、此病氣は一端起りますと云ふとなか／＼重い病氣で大抵百人の中には七八十人位は死んて仕舞ふのであります、併し今日は血清療法と云ふものが出來て、破傷風の血清を傷をした

時に注して置きますと、縦し其所へ悪い病氣の菌が入つて居つても病氣にならないで濟む、則ち豫防することが出來る、病に罹つてからの治療に注射しますが其時は早くないと効が少ない手後れになると助からぬことが多う御座りますそれだからそんな危險な怪我をした場合には詰り用心して置かなければならない、其他傷から入る病氣では、例へば此頃の發見に依るとマラリア、瘧も傷から入るのである、マラリアと云ふのは以前は瓦斯が地面から上る其瓦斯のためだとか色々說があつたですが、此頃になりて蚊に喰はれると起ると云ふことが分りました蚊が人を螫すと其時病毒を人の身體へ注ぎ込むと云ふ事が分つた、それで今ではマラリアの豫防としては蚊に食はれない樣にし又蚊を滅すことが必要となりました、皮膚から來るのは是で終りまして、次に御話するのは呼吸器から來るものがある、空氣の中に病毒が入つて居つて其空氣を呼吸すると病氣になる、例へば結核であるとか百日咳であるとか實扶的利亞であるとか云ふものは此例である、第三には消化器から入つて來る病氣がある、胃や腸がまづ冒されるのである、例へば虎列刺であるとか腸窒扶斯であるとか云ふのは此種類で多くは飲料水其他食物の中に病病毒が入つて居つて、それから病となるのである。病の種類によつて斯樣に皮膚から來る病氣もありますし、呼吸器の方から入る病氣もありますし、消化器の方から入る病氣もありまするが、ペストは何處から入るかと云ふに皮膚からも入るし呼吸器からも入る、則ち兩方から入いつて來る、消化機からは入らないそれで皮膚から入つて來るのは多く傷から入つて來る、それですからして傷をして居る足などが最も危險であつて、東京でも徒歩で歩く事を禁じて居るのは其爲めである、で此傷から病毒が入つた場合にはどうなるかと云ふに其所から淋巴腺と云ふものを傳うて、例へば足に傷がある場合には足から病毒が入つて足のつけね、股の所の淋巴腺に傳つて腫れる、是はペストばかりではありませぬ、普通の傷

をしても足に傷をすると云ふと股の所の腺が腫れて來る、それと同じやうにペストに罹りましても腫れて壓すと痛む、それから全身に段々病毒が擴がるさう云ふ風に足ならば股、或は手の傷ならば腋の下の腺が腫れて來る、つまり傷のある近所の腺が腫れてそれから他の腺を犯します、さう云ふ風に初め腺へ來るのを腺ペストと云ふ、名が付いて居るです、其他傷が分らないて毛孔のやうな所から入りまして、其所に腫物が出來る、さうすると普通の人は腫物が出來たんだと思つて居る、熱が出れば腫物の熱だと思つて用心しない、さうすると實は普通の腫物ではなくてペストの菌に依つて起つた所の腫物である事がある、かやうに腫物の形になつて來るのは危險であります、これを皮膚ペストだの或はカルブンケルなどと云ふ名が付いて居る、ペストは皮膚から入つて來るのは最も多いのですから、從つて貧乏人などが多く罹る、これは貧乏人は手あらき仕事をしますから手にも足にも傷があり、又少々飛回わりますから病毒を受ける事も多いからであります、それから呼吸器の方から來るのは最も危險なので、肺を犯しまして肺炎といふ病氣と同じやうな工合に起つて來る、熱が出て咳や痰が出る、其痰の中には永くなれば血が交る、普通の肺炎よりは重症の肺炎の症候てあらわれて來る、此種のペストは大變危險です、なぜかと申しますと其患者が出す痰はペスト痰を澤山其中に含んで居る、それから咳をしますと唾が飛ぶ其唾の中にも素より入つて居る、嚔をすると云ふと嚔をした時にも口から飛ぶです、斯う云ふ風に其人から出る息の中には病源菌があると云うて宜い位である、それですからして其人と顔を合して話をし又近くに寄つても感染つて仕舞ふ、それから又さう云ふ患者があると唾だとか痰だとか云ふものがどうしても部屋の中に散つて、其所にある夜具や着物や道具にくつつく、それに人が觸りさすればそれから間接に病氣になる、さう云ふ樣に此種類は最も感染し易いので非常に恐い、是に肺の方から來て居るから

肺ペストと申します、醫者がペスト患者に接しますに、何が一番醫者に危險かと云ふに肺ペストが一番恐いのてす、肺ペストの患者を診てそれから傳染して命を失つた人が澤山ある、東京ても横田と云ふ學士が此前の流行て死んだのも其爲めて、大阪の醫者て死亡つた人もある、多くは肺ペストと云ふことを知らないて普通の肺炎患者のつもりて接した爲めて何處かに手落ちがあると罹る、實に危險至極なものである、腺ペストの方は肺ペストほど危險てはない、なぜかと云ふと腺の中に菌が居るので外の方へは出て來ない、だから患者の取扱の上に都合が宜い、勿論死際だとか、重くなれば全身へ廻つて居りますが初めの中は左のみ危險てない、初めから危險なのは肺ペストてある、所が仕合せに肺ペストは少い、大抵は腺ペストて肺ペストは百人の中に二三人位のものてある、さて消化機から病のあることを申ましたがペストは胃や腸の方から　殆んど感染らない、是まて隨分試驗をした人がありますが試驗的には動物にかけることが出來るけれども實際に胃や腸からしてペストに罹つたと云ふのはまづ見出されて居らない、それてすからして虎列剌とか窒扶斯とか赤痢とか云ふ重に水から來る病氣などとまるて、性質が違て居る、夫だからして水や食物を注意してもペストの豫防には効はないので豫防の方法の上に於てもさう云ふ所が違ふから、其違ひの點を能く注意しなければならない。

ペスト菌が人の身體の中へ入つて來る道を御話を致しましたが、此來る道に從つて豫防すると云ふと豫防は出來る、先づ第一にペストの患者は非常に危險てあるから是に觸らないやうにすると云ふのが大切てある、此處にお出のお方は素より、さう云ふ場合はないと信じます、且つ今日はペストを早く知る方法が出來て來た、相當の技術者があつて病氣を調べて見ますと是はペストであるや否やを早く知る事が出來る、ペストときまれば直に嚴重の豫防の方法を施します、例へば病院へ入れるとか其家を消毒する

とか色々方法を盡くして、病毒を他の人に蔓延させぬやうにする夫等の方法は此處で御話する必要もありませぬですから畧して置きます、さて我々個人としてはどう云ふことに注意しなければならぬかと云ふに今御話しました通り傷をして居ると云ふ事は危險がある、それですからして成たけ傷を受けないやうにしなければならない、傷があれば其所に繃帶をするとか或は膏藥をつけるとか、成べく外界のものが中へ入らぬやうにしなくてはならぬ、曾て日本橋の衞生組合で以て冬ペストの流行つた時に、どうも下女や下男に皹てあるとか胼だとかさう云ふ少さな傷がある、是は危險である、其處から病氣の入る事もあるからして、是を治したが宜からうと云ふので、胼皹の藥を全體の人に頒けてやつたと云ふ事があつたのですが、斯う云ふのは大變都合が宜い方法で、ペストの時に於ては必要な事であるのです。

是迄御話しましたのは重に患者の事でございますが、ペストは患者を充分に注意して處置をしたならばそれて濟むかと云ふとさうは行かない、それはなぜかと言ひまするど、ペストと云ふ病は獨り人ばかりを侵すのではない、他の動物をも侵す、其動物の中我々に最も關係のあるのは鼠である、鼠は人の家の中に居る則ち人と同居をして居る、此鼠がペストに非常に罹り易い、それでございますからして人の事を幾ら注意して豫防し消毒をしましても、鼠に病毒が入つて鼠の中にペスト流行が起りますと何にも役に立たない、幾ら消毒して置いても鼠から鼠へ傳染つて、鼠がそれからそれへと病毒を振り撒く、鼠は交通がお互に頻繁なもので、甲の家の鼠は乙の方へも行くし、且つ鼠は病毒に罹つて死んで仕舞ふと、他の鼠が其肉を喰ふ、喰ふと其鼠は又ペストに罹る、さう云ふ風に鼠に一度ペストが入りますと鼠から鼠に段々擴つて行く、且つペストに罹つた鼠は大變氣が荒くなつて人もさう怖ろしがらなくつて座敷の中へても何處へても出る、それだから病毒の蔓延させて非常に危險なものである、抑ペストに鼠の關係が

あると云ふ事は隨分古くから知つて居つた、昔流行つた時の本などを見ましてもペストが流行ると鼠が澤山死ぬと云ふことを記載してありますが本當に鼠とペストの關係は分らなかつた、それが此頃になりまして檢査の方法が明らかになつて、段々調べて見れば鼠のペストも人のペストも同じ物であつて、詰り同じ病氣に冒されて居ると云ふ事が分つて來た、且つ是までの例に依つて見ましても、多くは鼠が先に此病氣に罹る、さうして鼠間の流行が可なり盛んになつてから人が犯される、東京の流行で見ましても先づ鼠が罹つて有菌鼠とてペストに罹つて居る鼠が澤山出て夫から始めて人がポツリポツリと病氣に罹つて來るやうになる、だから詰り人は鼠から病氣を貰ふのである、それでありますからして鼠はなか〱危險である、患者が無いからと云ふて決して安心に出來ない、一疋の有菌鼠は一人のペスト患者と同樣に考へねはならん、患者がある時には大變骨を折るが、鼠だけにペストがあると云ふ時には人がそれ程に騷がないのは間違である、さうからして居る中に鼠から鼠に擴まつて段々病毒が濃厚になつて來ますと云ふと人に出來る、さうすると狼狽て又騷出すと云ふやうな風になるですからして今日の東京の模樣で見ましても患者が少いから餘り氣にも止めずに居りますと、鼠から鼠に次第々々に蔓延して、さうして終にはどうする事も出來ないやうになつて仕舞ふ恐れがあります、て臺灣などは本年の如き既に今日までに千二百位のペスト患者が出て居るのです、さうして恐らく本年の終には二千五百位にはなるでせう、そんな風に臺灣ではもう行渡つて仕舞つて容易に撲滅することが出來なくなつて居る、東京でも抛擲つて置きますれば鼠の中に流行してなか〱容易に手を着ける事が出來ないやうにならうと思はれる、で是から少し鼠の事に就てお話しやうと思ふのです。

今お話しましたやうに鼠はペストの爲には最も危險なものであるからして、吾々は充分鼠捕りと云ふ事

を遣らなくってはならない、所が日本の家は不幸にして、鼠が大變多い、歐羅巴あたりでは家の構造生活の具合等に依りまするか鼠は比較的に少ない、日本の家では殆ど毎晩鼠の騷ぐ音を聞かない處はない、晝でも鼠が出て居るやうな風である、平常でありますれば素より鼠は甚しい害はありませぬけれども、ペストの際に於ては熱心に鼠を退治しなければならない、それですからして鼠を捕ることは今日の場合最も必要である、外國でも何處でも最も必要なる方法として奬勵してやつて居る、例へは懸賞をして鼠を買上げるとか色々の方法があるです、其方法を今少し並べて見ませう、鼠を捕るのには鼠捕りといふて機械で捕る方法もあるし、藥例之砒石亞比酸藥を團子の中へ入れて捕る方法もある、其他鼠の罹る病氣がある、鼠窒扶斯と云ふてまつ鼠のみが罹る病氣て人や其他の家畜は感じない、さう云ふ病氣の種を食物に入れて鼠に食はせると鼠が病氣に罹つて鼠から鼠に傳染して一の流行病となつて鼠を絶やす其微菌の種も三通りも出來て居るです、さう云ふ種を使つてよい成績を得た處がある、其他鼠を退治するには猫は最も宜からうと思ふ、平素猫を飼ふのは餘り私等は賛成する方ではありませぬけども、ペストの爲に飼つて置くのは宜しい、然し何もしない役に立たぬ、唯可愛がつて置く猫ならば何にもならない、充分鼠を捕る事の出來る猫ならば此際は何匹でも御飼ひになつた方が宜らうと思ふ、猫は鼠の天然自然の仇敵であるから之を利用するのは策の得たるものでありましよう、それから外國などでは犬て鼠を捕るのがある、小さい犬てすけれども鼠を能く捕る、さう云ふのも馴らして使つたならば或は宜いかも知れない、此間も我々が寄つてどうしたならば鼠を澤山捕れるだらうか、鼠捕や、毒入團子などは初めは良く掛かるが後とになつて來るとどうも掛らない、鼠の方が怜悧になつてなか〳〵喰はない、だからして團子をやると其次にはバタを付けてやるとか色々手段を變へてやらぬといけない、機械でもさう

てす、初めには掛りますけれども二度目三度目になると中々掛からない、だからして或人などはこんな面白い説を稱へて居た、鼠には雄と雌とある、雌の方は殺して仕舞ひ雄だけは放してやるが宜いと云ふ説てす、何故なれば雄を放すと雄が多くなり雌の方が少くなる、さうすると雄は配合を求むるに困難となることから雄同士て喧嘩を始めるからして、自然に子を殖す事が出來なくなる、だから自滅すると云ふ譯なのです、ちよつと聞くと云ふとどうもそんな巧い譯に行くかしらと思ふてすが案外巧く行くかも知れぬ、是は實際壕太利亞で斯う云ふ事をやつた例がある、それは鼠てはない兎で以てやつた、壕太利亞に一時兎が非常に殖へた、初めは兎を飼つて喰つたり色々兎の用法がありますから使ふ積りてやつた、所が兎の繁殖力が非常に殖へて作物を荒すやうになつて大害をしだした、そこでどうして兎を退治するが宜いかと云ふ事が懸賞になつた、所が或人が雌を殺して雄は放してやるが宜い。さうすれば殖へぬてあらうと云ふ説を出した、之を實行して見るに兎は巧くそれで以て數を減す事が出來た、かくの如く兎ては其方法て成功して居りますから或は鼠てもいかぬ事はないかも知れない、まあ兎に角此鼠退治と云ふ事に就て、若も極く斬新な完全な方法を發見せられたならは今日の場合非常な利益てあるものてある。所て私は今皆さん、殊に御婦人方にお願ひ申すのは、政府當局者は重に表面の豫防方法を講じて居りまするから、詰り御婦人方は内に於て、鼠捕りのことを充分御願申すのである、皆さんの采配の執り方で鼠をなくすることは困難でなからうと思はれる殊に此頃懸賞にもなつて居るのだから、下女や下男に命じられ又は奬勵されて本氣になつてやれば僕婢自分の身に取つても損じやない、一匹取ればちやんと幾らと云ふ金か入るのてすから充分御奬勵になつて宜いと思ふ、其方法等は素よりどう云ふ方法でも宜いが、兎に角此處にお集りの方々はどうか鼠は危險のものだと云ふ感情を御持ちになつて充分お

やりにならん事を希望するのであります、尙貴婦人方に御話したいのは日本の家は鼠の多いと云ふ事は、臺所の不整理と云ふ事が非常な原因であらうと思はれる、外國の家でありますると臺所に落板などは素より無し、隅から隅まできちんとして居つて鼠の通行する所などは少ない、二階や三階の上にも臺所があると云ふ風でありますから、其臺所も吾々の座敷のやうになつて居つて整頓したものだ、流しの水とても鉛の管が下水の方に繋つて居ると云ふ丈で、喰ふ物を容れる戸棚さへ締りがよければ、鼠が出て來ても喰ふ物がないから鼠は繁殖すると云ふ事は出來ない、日本の臺所を見るとどうかと云ふと大抵の家へ往つても流しの隅には菜葉の屑もあれば大根の切つたのもある、其他魚の殘りもあると云ふやうな風で鼠の喰ふ物が幾らもある、且つ戸棚と云つても鼠の入らない戸棚はない位だから自由に入つて鼠は召食つて居る、さう云ふ風であるから鼠は充分威張つて生活して居る、併し是は臺所の御主人が少し注意をすれば隨分鼠の退治は出來やうと思はれる、それの證據には明いて居る家には鼠は段々居なくなつて仕舞ふ、素より空家には喰ふ物がないから段々減つて仕舞ふ、人が住んで居つても鼠の喰ふ物の無いやうに計畫すれば鼠を退治する事は困難でなからうと思ふ、臺所の隅に鼠の喰ものを置く事は成たけ止して、又塵溜にはしつかりとした蓋をして置く、鼠は塵溜の中で能く漁つて居るですから塵溜を開けひろげて置くと云ふ事は極く惡るい、又衞生上の關係も惡るいてすから塵溜などはすつかり閉ぢて鼠の入らないやうにする、流元は淸潔にして喰ふ物の無いやうにする、斯う云ふ風に一ヶ月も續けてやれば鼠は大抵居なくなつて全滅をさせると云ふ事は何でもない、それは浦鹽斯德を兵糧攻にするよりは私は此方が易く出來やうと思ふ、斯う云ふ風に兵糧攻にして鼠を退治すると云ふ事が最も宜からうと思ふてす、北里博士は家の改造をして鼠の入らない家を拵へる方が宜いと言はれて居るが、是も尤な考案

て、西洋風にして置て少し注意して鼠の入らないだけの裝置をすれば出來ない事はない、實際北里博士の家などは其通りになつて居ると云ふ事ですが、どうも家を借りて住居つて居る貧乏人などには行かないが、此處にお出のお方は金持のお方が多ふございましようから充分設備をする事も出來ましよう、又是から先に建築しやうと云ふお方ならば少し注意さへすれば幾らでも出來る、それはどうするかと云ふと詰り家の中へ鼠の入らぬ樣に隙間を閉いてをくことである、椽の下の處は金網を張つて鼠が入らぬやうにする、流元の下水へ行く道へも矢張り金網を張つて下水の方から流元へ入つて來るのを防ぐ、或は屋根裏、廂、羽目等の隙間のない樣に金網等をつ張て鼠の入らぬやうにする、尚ほ一歩進めて自分の家の周圍りをすつかり煉瓦や亞鉛の塀を作つて、他の家の鼠と交通の出來ないやうにするのも宜しからん、金のある方は相當な事をなさるが宜しいが、兎に角今お話しましたやうに臺所を淸潔にしてやると云ふ事は、鼠を退治する事の上に非常な必要であらうと思はれる。

て詰り今までお話した所の大體を括つて見まする と、ペストと云ふものは人から感染り或は人から間接に又人に感染る、而して其傳染するのは主に傷からて水や食物からてはない從つて此豫防をしなくてはならぬ、又もう一ツはペストは人ばかりてない、鼠を侵すからして鼠の退治と云ふことは極めて必要てある、て是が若し完全に行かぬと云ふと、幾ら病毒、即ち患者等に骨を折つたつて何にも役に立たぬ、鼠退治と云ふ事はペストの病氣を防ぐには極めて必要なる事てある、之をするのには鼠を捕る色々の手段方法を講じて、さうして充分に鼠を退治して仕舞はなくてはならぬ、又御婦人方に殊に希望するは臺所の整理をして鼠に喰物を與へない樣にして自然に生活の出來ないて自滅する樣にしたいと云ふことてあります、是てペストの話を終つてをきます、

衣服の防水法に就て（於本會）

醫學士　樫田龜一郎君演說
佃速記事務員速記

唯今はミセス、コーッさんの御演說で、而も流暢な日本語で有益なるお話がございまして、私も拜聽いたしましたが、大體御同感でございます、其の中で自分も一寸思ひつきましたことがございますので、附加へてお話をしやうと思ひます

襟のお話がございましたが、高い襟特に狹い襟が衛生に害のありますることは、頭から血が心臓の方に返るのを妨げまするために、靜脈の血液が多くなります、靜脈の血液は炭酸瓦斯を多く含んで居りますから頭痛の原因となります、殊に學校などで、高い襟をかけて屈んで本を讀んで居りますと、既に一度頭腦を養つて來た血が元に返るのを妨げまするために頭痛の原因となります、また靜脈が止まります爲めに頭腦の機關に障害を及ぼして、或說では近眼の原因と數へられて居るやうでございます

それから水兵服のお話がございましたが、之も誠に御同感でございます、殊に小學校の兒童に、まだ多くの學校では「フック」掛の着物を制服にして居りますが、「フック」掛てありまするど、小さい子供が成長するに隨つて、いつの間にか「フック」が狹くなります、襟の附いた着物で而も「フック」掛て、さうして胸の割合に着物が狹くなると「フック」が固くなる、さう致しますと丁度婦人の「コルセット」を掛けた着物のやうになつて、兒童の胸部の發育を妨げることが著しくあります、水兵の形の服でありますると、ふツくり出來て居りまして、胸を責めませぬから衛生上には最も宜しうございます、デ私の考へては各小學校の生徒、殊に十二三歳位までの間は、すべて水兵服に縫へた方が宜からうと考へます、尚ほ靴、帽子の事は今日のお話と關聯して居ることがございますから、それは後にお話いたさうと思ひます。それで今日は私にも、何か衛生の事に就いてお

話をしろと云ふことでございますが、未だ私は自分躬から衛生の事を取扱ふやうになつてから、尚ほ日が淺うございまして、皆さんに利益のあるやうな話の材料は多く有つて居りませぬ、却つて皆さんの方が、屢々諸先生方の御話をお聽きになつて居つて、詳しいことだらうと思ひますが、少し自分が此頃實驗しました所の、衣服の防水の事がございますので、追々梅雨の期にもなりますから、衣服の防水の事に就てお話をしやうと思ひます、既に御承知の方もございませうが、或は未だ御覧にならぬ方もありませうから私の拵へましたものを御覧に入れ、旁々少しお話しやうと思ひます

衣服の防水のお話をいたしまする順序として、衛生上から見ました所の衣服の事、それから雨具の事をお話いたしまして、終に衣服の防水の事に就てお話しやうと思ひます

吾々の着て居りまする所の衣服は、衛生上から申しますと、體溫を調節いたしまするのが主なる目的でございます、吾々の身體は常に一定の溫度を保つて居らなければならぬのでありますが、身體の外の空氣といふものは種々に溫度が變りまして、或は寒くなり或は暑くなりますから、それに應じて衣服を着なければならぬのでございます、氣溫が攝氏の二十五度以下になりますると云ふと、吾々の體溫を奪つて體溫が降ります、そこで衣服の必要が起つて參るのでございます、それで衣服に就きまして衛生上から申しますと、主なる要件が三つございます、第一は衣服によつて體溫を保ちまする事、即ち保溫の作用、第二は通氣の工合、即ち瓦斯が通るか通らないかといふ事、第三には着物の濕潤といふことでございます

それで保溫の事に就て申しますれば、人が若し着物を着ませぬで空氣中に居りますといふと、その空氣中の溫度が低ければ低いほど體溫を餘計に奪はれます、即ち寒く感ずるのであります、若し空氣と身體との間に衣服を置きますと云ふと、即ち衣服を着

ますと云ふと、直接に空氣に取られる所の體溫が、衣服を隔てゝ取られるので有ますから、そこで溫度を取られることを餘計に感じなくなる、冬には着物を澤山着て居りまするると、外の寒い空氣を感じることが少ない、といふのは成べく身體の外の方で溫の交換を致す故でございます、デ此溫を餘計に取られますと云ふと、是は啻に衞生上不利益であるのみならず、又經濟上にも不利益で有まして、丁度室内で炭薪を贅費すると同じであります、身體の溫を濫りに放散いたしますと、その溫を造る所の食物を餘計に取らなければならぬのでありますからして、隨つて不經濟なことになりませう、若し人が着物を着ずに空氣の中に居りますと、直ぐに身體から溫を奪つて行かれます、それから着物を着ませぬ時の人の體溫は二十七度から三十二度位であります、尤も病氣の時に、醫者が寒暖計を腋に入れて計りますときには、密閉された處で計るのでありますから、外とは關係がちがひます、それから身體と衣服との間にありまする空氣の溫度は、二十四度から三十度位であります、これは皆攝氏の溫度でございます、若し身體に一枚の毛織の「シャツ」を着て居りまして、さうして其の上から體溫を計りますと二十八度位に降ります、尙ほ其の上に麻の「シャツ」を一枚着て、さうして其の上の溫度を計りますと二十四度位、また其の上に「チョッキ」を一枚着て計りますと二十二度位であります、尙ほ又上着を着まして、其の上から計りますと十九度位になります、即ち衣服の上に行きまする程溫度が低くなりまして、外の空氣との差が少なくなりますから、それで溫を取られることが少ないのでございます、若し衣服が溫を外に餘計に傳へてからに、その衣服の上から計つた溫度が高いのでありましたならば、その衣服は衞生上に好くない衣服であります、それから溫を外に出しますることに就きましては、溫を放散すると云ふことゝ傳導すると云ふことゝ、此の二つありまして、放散すると云ひますのは、高い方の溫度から低い方の溫度に向

つて打衝かりました即ち間の隔だつた所に當つたものを放散といふのです、例へば「ストーブ」の前に立つて居りまして、身體に當つて夫れて溫を傳へる、それから傳導といふ方は、物に直接に觸れてそれで溫を傳へるのであります、それで衣服は、身體に空氣が當り或は冷たい物が觸接して傳導て溫を取りますることを防ぎますが、また着物自らもこの傳導の力がありますので、着物自らが溫を外に傳導するものにもなります、併ながら此の溫の傳導の方は着物の物質、即ち毛織てあつても絹てあつても、或は木綿であつても、其の材料には餘り關係がなくして、其の織り方に關係するのでございます、尙ほ詳く申しますれば、その織つてある所の着物の空氣の嵩に關係するので、空氣が多いだけ、その空氣が體溫で溫められまして、その溫を着物の中に保つて居りますので、それて溫氣を感ずるのであります、でありますからして物質よりはその、空氣の量が多いほど着物が溫かい、その中に含んで居る空氣の量の多いほど溫かいのでございます、例へばお煎餅のやうになつた極く古い蒲團でありますと、着て居つても寒い、といふのは即ち其の中に含んで居る空氣の量が少ない、即ち溫められる所の空氣の量が少ないから寒いのでございます、新しい綿てフハ〳〵として空氣が澤山含んで居る蒲團でありますと、その蒲團が溫かいのてはありませぬが、空氣の量が多いために身體の溫が空氣の中に保たれまして、さうして溫かいのでございます、同じ「フランネル」の「シャツ」を着ましても、洗ひ曝した極く目の詰まつた「フランネル」は着ても寒い、けれども毛の多いフハ〳〵とした新しい「フランネル」であると溫かいです、即ち含んで居る空氣の量が多いからであります、尙ほ例を申しますれば同じ厚さの手袋でも、革の手袋は冷たいです、それに反して毛の手袋は溫かい、斯ういふ譯でございます、それで着物の溫かい寒いといふことは、其の物質よりも、其の織つてある所の物の空氣の量に關係すると云ふことが、お了解になつた

らうと思ひます
第二には衣服の通氣度であります、それは着物が瓦斯體を通すか通さないかと云ふことであります、是れは衛生上至大の關係がありますことて、吾々の皮膚からは御承知の通り汗が出ます、水蒸氣と尙ほ炭酸瓦斯を常に出して居ります、肺臟からも炭酸瓦斯を出して居りますが、皮膚からも出して居ります、さうして其の瓦斯が、着物の中に含んで居る所の空氣中に籠つて居りますので、それが餘計に籠るほど身體に害があります、それ故に若し着物の目が詰まつて居りまして、水蒸氣も瓦斯も出ませぬといふと、どの位結構な着物でありましても、それは衛生上からは誠に惡るい着物だと申さなければなりませぬ、デ水蒸氣が籠もつて居るやうな着物を着て居りますと、蒸暑く感じて長く着て居ることが出來ませぬ、また炭酸瓦斯が着物に籠もつて居りますと、丁度室内に炭酸瓦斯が溜まると惡るいと言ふのと同じて、衣服にも空氣の流通がありますから、外の空氣と交換が出來ませぬと炭酸瓦斯が多くなりまして、有害であるのでございます、それで着物は矢張り空氣が外に出るやうになつて居らなければならぬのであります、併しそれは一方の保溫の方から考へますと損になるのです、冷たい空氣が這入つて替り合ふのでありますから損になりますけれども、其の損は、一方の害の方から考へますれば何でもないことになるのです、丁度部屋の內で炭火を焚いて溫めて居りました、それで換氣法のないのと同じ結果になります、換氣法をしますと外の冷たい空氣が入込んで來て、つまり溫を損することがありますけれども、併ながら空氣を淸潔にするといふ利益の方が多いのであります、衣服の方でも矢張り其の部屋のことゝ同じやうで、通氣法、換氣法が出來るやうになつて居らなければならぬのであります、それが衣服は瓦斯體が交換しなければならぬと云ふことのお話であります
第三には濕り氣が有るか無いかと云ふことてありま

す、前に申した瓦斯體の交換の出來る事と、それから此の濕氣を防ぐといふ事とが、今日お話しやうと思ふ事と最も關係を有つて居るのでございます、衣服の凡ての材料は、毛織でありましても絹でありましても、或は木綿でも麻でも、みな濕氣を取る性質を有つて居ります、さうして其中で毛織は一番に水を彈きます、尤も十分に水を含ませますと云ふと非常に水を含むものでありますが、織つてありますと水をかけても能く彈きます、次は木綿で、麻、絹等は能へ水を引きます、それで雨、雪等で着物が濡れますといふと、その着物の中に在る空氣が水の爲めに追出されまして、代つて水が這入りますから、その水が體溫を傳へて水蒸氣となつて、溫を餘計に持つて行きます、でありますからして、汗の多い方などには毛織の「シヤツ」が宜いのです、水をよく彈きますからです、若し木綿其他のものでありまして、それが濡れました時には、その濡れた着物が身體に直接に着きまして、溫を取られて風邪をひくやうな事になるのであります、着物が濡れまして害のありますることは、例へば靴下が濡れまして、その濡れた靴下を自分の體溫で乾かさうと思ひまするど、丁度半斤の氷を溶かすに用ゐるだけの溫度が必要であるのでございます、それでありますからして全體の衣服が濡れましたならば、その衣服を乾かしますには餘程澤山の體溫を要するので、害のあることは見易いのであります

先程靴のお話がありまして、靴が濡れるといふ事と、それから動作に就て、足袋の下に底を附けてあるものが宜いと云ふお話がありましたが、誠に其の通りでございますので、尙ほ其の靴をば濡れないやうに防水して置きましたならば、尙更先刻の御話が有効になるであらうと思ひます、ちよつと私も思出しましたからお話いたして置きますが、足の事に就きましては、私もベルツさんに伺つたことがあります、それは斯ういふことであります、子供の時分から足袋や、靴下を始終穿かせるといふ習慣を附ける

のは宜くない、歐羅巴の人は子供の時から始終靴を穿いて居るので、靴を脱ぐといふと直に風邪をひく、寒い日などには、足を出すといふことが日本人より餘程弱いやうであります、私が子供の時などは、跣足で學校へ行つたとことがありましたが、西洋人が見て驚きまして、風邪をひく風邪をひくと見ひました、自分はそんなに思はなかつたが大變に注意されたことがあります、デ吾々は然う西洋人ほど常に足を包んで居りませぬで、外の空氣にも當り、暑さにも堪へて居りますから、足は餘程強いてす、けれども西洋人は始終足を包んで居りますから、日本人から見ると餘程弱いやうばあります、我が國でも段々歐羅巴の風俗がはいつて來た爲めに靴が行はれ、尚ほ足袋も穿きますので、常に足を包むやうな習慣となり、足まで歐化するやうになつて來ましたが、是れは然うしない方が宜しい、夏海水浴などに行つた時は、素足のまゝて海邊を歩るく方が皮膚の抵抗力を強くし宜い、ちよつと思出しましたから序に申上げて置くのでございます

お話が復た戻りまして、外から衣服が濡れますることは、今お話いたしたやうに雨とか、雪とか、露とかで濡れますし、また着物の内からは汗で濡れますが、普通は先づ雨で濡れるのであります、それでこの雨といふものを防ぎまするには、第一は勿論家屋であります、其の外衣服と家屋との中間に立つて居りますものは、天幕であります、それから衣服を着て外に出まする時に雨を防ぐものは勿論雨具であります、デ、この雨具といふものは國々によつて其の沿革が違つて居るやうでございます、雨具の事に就て一寸申しますれば、我が國では、雨具の事は餘程古くから物の本に見えて居るやうであります、古語拾遺といふ本に「令ニ手置帆負、彦狹知二神云々造ニ瑞殿ニ兼作ニ御笠及矛盾ニ」といふことが書いてあります、神代時分から笠といふものが出來て居つたらしい、さうして其の笠は被笠てあつたらしいてす、是れは一寸考へて見ましても、被笠の方が先に發達し

て、來たやうに思はれます、太古の時代に於きまして未だ小屋住居をして居るやうな時には、雨が降つて來れば小屋の内に逃込みますとか、或は樹の下に隱れるといふのが自然であつたらうと思ひます、或は急に雨が降つて來れば、何かそこらに在る天然物(木の葉の類)などで凌いだらうと思ひます、日本では秋田邊に參りますと、秋田蕗といふ大きな蕗が出來まして、その蕗の葉を笠の代りに用ゐると云ふことを聞いて居りますが、驟雨の時などに、さういふもので雨を避けることは自然のことであらうと思ひます、てありますから、どうしても破笠の方が先であつたらうと思ひます、今でも途中で雨具を持つて居りませぬと、風呂敷を被つて往來を駈出す場合も隨分見かけます、そこで此の破笠では殊に菅笠が一番古かつたやうでございます、菅笠といふのは日笠でも雨笠にも兩方に使ひ、殊に中古旅行します時には必ず之れを用ゐました、それから竹の子笠といふのがありますが、それは主に雨天の時に用ゐました、それから傘でありますが、是れは餘程進歩して居ります、傘は何時頃から用ゐたか判然分かりませぬが、大分古くから有つたのであります、職員令に「主殿寮頭供二御輿輦一掌二蓋笠繖扇一」といふことが書いてありますが、繖といふ字は傘の古い字ださうでございます、これは絹張り或は紙で張つた傘のことで、それが隋唐の時代に傘の字になりまして、それを「からかさ」といふやうになつたのたやうでございます、この方は餘程進歩して居るものと見えます、それから次が蝙蝠傘でございます、これは勿論西洋から來ましたので、安政年間より歐米の品が這入つて來ると共に、この蝙蝠傘も來たのであらうと思ひます、初は男子ばかり用ゐて御婦人は用ゐなかつたさうでございます、大概慶應三年頃から段々流行して參つたさうでございますが、其の時分には日傘としては御婦人は日本の日傘をさして居られるので、それでないと似合はないやうであつた、所が今日では御婦人でも蝙蝠傘をさすやうになりまして、今は

日本の日傘をさすと少し可笑くなつて來ました、段々變遷して參るのは面白いものでございます、それから西洋の方でも傘は餘程古くから行つたやうです、紀元前四百年ばかりに、希臘の有名な小説家の著作の中にも傘の事が書いてあり、それからペルシヤの古い城にも傘の畫か描いてあると云ふことでございます、併し西洋でも矢張り婦人ばかりが用ゐて、男は之れを用ゐなかつたもんださうです、若し男が傘をさすと婦女子のやうだと言はれたさうです、英吉利の倫敦で流行し初めましたのは割合に近頃のことで、千七百年代即ち今から二百年ばかり前てあるやうです、或書物にさういふ事が書いてございますか、英吉利の倫敦でジョン、マクドナードといふ人が西班牙から傘を持つて來てさして歩いた。それは形が大きくつて今のより恰好がわるいものださうですが、人が見て笑つたさうです、けれども其の人は構はず其の傘をさして居つた、所が數月の後には、その笑つた人々も必要を認めて段々用ゐるやうになつたと云ふことであります、佛蘭西の巴里では矢張り千七百年代頃に、その不恰好な大きな重い傘を、或職工が今のやうに手輕なものに造り直して用ゐるやうになりました、所が帽子の方に影響を及ぼしました、帽子屋が段々衰微して來ました爲めに、帽子屋　蝙蝠傘屋の方を妬んでからに、口を極めて誹謗したさうです、併し傘を拵へる人は少しも其爲めに挫折しないで益す勉勵しましたので、遂に蝙蝠傘が巴里の一大物産になるやうになつた　云ふことが書いてあります、先づ斯ういふやうに雨具が沿革を以て變遷して來まして、今日何れの國でも用ゐるやうになつたものと思ひます

それで先づ傘といふものが、雨天には殆ど缺くべからざる器具の一つになつて參りましたのでありますが、近頃になりましては、その傘をさすといふことは甚だ不便で、手の自由を防げる、殊に軍隊などでは尚更然うて、すべての働作を妨げます、そこで傘を廢して着物自らをば濡れないものにしたいと云ふ

考が、近年起つて參つたのであります、それには水の通らない所の物質を直接に着物へ塗りますか、或はその中に浸たしまして、さうして雨其他の水を彈くやうにする、それに用ゐますのは第一には護謨てございます、護謨引の着物でありますとか、或は「テール」を引きましたり、或は松脂のやうなものを附け、或は油を引きましたりして、水の通らないやうに拵へたのでございます、其中でも護謨の製作品などは段々上手になりまして、大變好く出來るやうになりました、そこで成程この護謨などを引きましたのは、防水は完全に出來ますが、併ながら先刻お話いたしました衣服の第一の要件である所の通氣と云ふことは全く缺けてしまふ、即ち瓦斯の交換及水蒸氣の蒸散が出來ませぬ、それでありますから護謨を引いてあります所の着物を着て居りますと、水蒸氣が出ませぬ爲めに大變に蒸暑くなります、それから炭酸瓦斯が矢張り出ませぬで、着物の中に蓄積してしまひます、それてありますから水の浸込まないことは立派に出來ますけれども、衣服の通氣といふことが全く缺けてしまひます、故にさう云ふ方法で拵へた所の衣服は、衞生上から排斥されるやうになつたのでございます、そこで第二に起つて來た所の考といふものが、即ち今日のお話しやうとする所の主眼のものでありますが、それは衣服の纖維に水の浸みないものを附けて、水を十分に防ぎまして、而も着物の目を塞ぐことなく、瓦斯も水蒸氣もよく通じるやうになつて居つて、さうして其の着物が水を彈くと云ふことが出來るのであります、若し然ういふ風に出來上りましたならば衞生上の缺點もなく、それから着物を濕めらせるといふ虞もないのでございます、その考が段々進んで參りまして、今日ては稍々完全に行へるやうになつたのでございます、それで自分が、洋服地並に日本の着物の地に防水しましたものを、少しばかり此處で御覽に入れやうと思ふのでございます

以下實驗を示す

(一)是れは「リンネル」でございますが、甲は防水したので、乙は防水しないのです、之れに水を注ぎますと、甲の方は丁度蓮の葉の上に水を置いたやうになつて、少しも水が通りませぬ、乙の方は防水してありませぬから斯様に直に漏つてしまひます

(二)これも防水してありますが、丁度硝子などの上に水銀を置いたやうな工合に見へまして、コロコロして居ります、之れと同じ布で、防水しませぬのは此の通り抜けてしまひます

(三)尚ほ御覧に入れますのは日本の布でございます、洋服地の方は毛自らが水を弾く性質を有つて居りますから、ちよつと分かりにくうございますが、毛織でないものは容易く分かります、甲は防水した方のもので、乙は防水しませぬ方の縮緬の布です、そこで斯様に水をかけて見ますと、甲の方は何時まで置いても水が通らないで、乙の方は斯様にズーッと通つてしまひます

(四)それから又斯ういふ布があります、ごく薄いものですが、夏に汗の出ます時に、御婦人が下着を着て居つても、汗の浸出すことがありませう、其の時分に斯らいふ防水した下着を着て居りましたならば、あのさうに外まで通すことがないだらうと思ひます、斯ういふ薄い布でも防水してありますと、この通り水が漏りませぬ

(五)それから又こゝに斯ういふ布があります、これは或は合羽のやうなものに使ひますが、若し之れを護謨などを引くと固くなりますが、この方法で防水いたせば、目を詰めないで柔靭になつて居ります

(六)衣服の濡れますのは、今やつて御覧に入れましたやうに澤山の水が一時に掛かるのでなくして、主に雨とか雪とか或は露などで濡れるのです、さうして御承知の通り雨は細かいですから、表面が濡れても、下まで通るのには餘程の時間を要する譯です、それも壓力が加はらなければ容易に通り

ませぬ（如露にて水を注ぎて示す）

そこで是れはどう云ふ風にするのかと云ひますと、先づ有機物とよく結付くもので、さうして水と親まない所の化學品はないかと云ふことで、それをいろ〳〵調べました所が「アルミニウム」、即ち礬土の鹽類で、殊に醋酸礬土といふもが最も宜いのであります、それは此處にありまする白い粉でありますが、之れを水に溶かして布に塗るのです、是れは醋酸礬土として精製した化學品でございますが、斯ういふ風に立派に出來て居りませぬものでも、もつと簡單な物と簡單な物とを合せましても、吾々は矢張り醋酸礬土を得ることが出來ます、それは明礬水でございます、明礬水は硫酸と「カリウム」と「アルミニウム」と附いたものでありまして、其の中には礬土があります、それから此處に醋酸と鉛と結び付いた鉛糖といふもので、それを水に溶かしたものであります、さうします　一方には「アルミニウム」があつて一方には醋酸がありまして、兩方結付いて醋酸礬土といふものが出來るのであります、それで先づ斯様なものが出來上がりまして、（實驗を示す）其の中に布を浸して乾かすのです、毛織物などは之れに浸したのみて宜しいが、物に依りますと、「アルカリー」液或は石鹼水を以て止めますれば能く附きます

そこで唯今お話をいたしました所の防水並に防水布でございますが、若し之れを應用しますならば、その應用の範圍は餘程廣いだらうと思ひます、第一に合羽です、是れから先き梅雨の時候には皆さんが合羽をお着になりませう、所は雨の降る日に見て居りますと、學校に行く子供が濡れたなりに通つて居つたり、或は袴などを濡らして居ります、袴なども矢張り防水して置いたら、雨の時には餘程宜いと思ひます、其外また風呂敷なども一寸防水して置きましたならば、例へば濡らしてはならない所の書籍などを他所に送る場合に、さういふ風呂敷に包んでやつたら安全でせう、それから男の外套や洋服などは勿論でありますし、その應用の範圍はなか〳〵廣い

だらうと思ひます、さうして着物に就きましては却つて皆さんの方が詳く居らつしやるから、いろ〳〵御考になつたなら有益の事があらうと思ひます、若し御自分で行つて見たいと云ふ御望の方がありましたならば、御尋ね下されば尚ほ詳く其方法に就てお話をいたします（了）

寄書

婦人美と衛生と

在獨逸伯林大學婦人科教室
ドクトル メヂチネー　工藤武城

私は私の專門が女科學があります爲に、日々幾十の患婦を取扱つて居る內、此等の哀れなる女姓諸氏が、健康を損ねたのと同時に、天から授かつた『美』も、著しく傷けられて居る樣に思れて、軈て本誌の田中君のお頼みもありましたし、遂にこんな惡戯書も仕て見る氣になりましたので。

天の星、地の花、人の女は、美なる萬象の中、神の傑作であると、歐羅巴の詩人は頌しました、文豪マコレーも歌つた事があります、婦人美は美の最美なりと。實にや女子は宇宙を彩色する模樣であり、裝飾であります。無趣味極まる人間界の綾星て、地上の天華とも申しましよふか。煩悶多き人生は如何はがり此が爲めに慰められ、圭角多き社會も此れあるが爲に滑らかに行ます、此尊い美の保有は女子の神から與へられたる特權であると同時に、此を養つて行くのは、神と人とに對する責任で、此れを傷けない樣保護するのはやがて世に對する義務ではありますまいか、故に歐洲の先見ある士は、美育を以て女子教育の一要素として、智育、德育、體育と共に、決して忽にして居ませぬ。又日本式の教育でも、美育は身嗜の名の下に、切りに奬勵された時代もあり

ましたが、惜しひ事には開けない世であつたゞけに、學問上の土臺に立つて説明する程になつて居ませんでした、此方の女子衛生書には必ず美育の一條があつて、欠くべからざるものとして論ずる迄に進んで居ます。

私は婦人美と健康と申しますた。先づ研究の順序として反面から問を起して見ます。

世に美なき健康ありや?

あります。立派な身體の發達は遂げながら、美しひと云ふ觀念も少しも起させない婦人は澤山であります、粗野な擧動は兎も角もとして、平たい鼻、恐ろしひ程大きな臀部、特に歐羅巴では、亞爾伯山派中の、墺地利のインスブルク市を中心として、瑞西、伊太利の亞爾伯に接した所では、特に此感多からしむる奥さんやお孃さんを澤山見受くる樣でした、印度の令孃、亞非利加の貴婦人、よく〱健康にお見受けしますけれども、どうも美しひとは思はれませぬ、今の間を倒にしますと、

然らば健康ならざる美ありや?

此れは今迄の世の意義に從へばあるかも知れませぬ。然しながら玆には同情と可憐と云ふ觀念が大に加勢をする樣であります。抑も美とは後に述べます樣に調和でありますので、調和を失したものには既に已に美に欠點があります。平たく申して見ましても、活氣とか、快活とか云ふ分子は病氣に際して無くなりましよふ、此生々して居ると云ふのは、人にどの位快感を與るか知れませぬ、此快感は既に美を形作る要素であります。美にして快活ならで、調和を失した不快活に比して倍以上傍の人に快感を與へます。云ひ換れば美に見へます。此迄云て來た事で、美ならむが爲めに健康は必需の要件では無い樣でありますけれども、不健康は美を片輪からしむる毒虫である事だけ分りました。彌本論に入ります。

然らば美とは何か?

支那の古典によると、太つた羊と云ふ義だそうで、羊の下に太の字をお書きになれば美と云ふ字になり

ます、然し其標準は時代の變遷や人種の異同で甚しひ相違があります。二三例を擧げて見ますならば、南亞非利加の土人は一向其黒からむ事を望んで、或熱帶植物から取つた黒い油を塗りつけて喜び、ニウジイランド人は顏一面に刺墨をして、お負けに髮の毛を燒き縮らして美とし、ホッテントット人は乳房の馬鹿々々しくぶら下つたのがよく。墨其西哥のクローン土人は頭蓋が平たく鎚の樣に後の方に尖つたのが美人だそうで、小兒が生れてから直に、種々の型に入れて、支那婦人の足を變な形にすると同じに、無理に其形にして仕舞ます。私もキュリッケル博士の標本室で、此人種に屬する婦人の頭蓋骨を見た事がありますが、いや醜いもので、一見嘔吐を催す計りです。まだ可笑しいのは埃及のコプト人、あそこの婦人は眼の球が出張つて大きくて牛の丶樣でなければいけないそうで、夫れに芝居の辨慶見たいに眼の緣を彩つて居ます。先年洋行の途次埃及のポートセット港で、美人繪端書だと賣りに來たのにも、此れがありましたが、私共には眼が飛出すバセドー氏病と云ふ一種の病氣に罹つた人とほか見へませんでした。細い腰が上品だと騷ぐ歐羅巴人は、腰が大きくなければいけないと態々厚綿を入れて膨らすバーリ土人の眼には何と見へましようか、足の細い支那人や、鼻の中隔に貝殼を下げるニウジニヤ人や、擧げ來れば數限りはありますまい。單に齒の事計り申しましても、我々日本人や歐羅巴人は細く白く揃つた齒が美だと申しますのに、ホッテントット人、印度人、ライドシユ人は、赤か黃かで大きいのがよく、バリカーネル人は糸切齒が鬼の樣に兩方に出張つたのが好ましく、ペルー婦人、墨其西哥婦人、我領地の臺灣婦人は、右か左の下顎に一本は是非欠げて居ねば面白く無いとして態々齒が代ると同時に引欠ぎ、ニウジイランド人は短からねばならぬと鑢ですりへらすそうであります。私の記憶にあるの計りでもこんなに澤山ですから、調べて見たらどの位澤山だか分りませぬ。

時代の方から申しましても、今日尙標準として居る希臘全盛時代、稍下つてロッコッコー美術時代から近世に至る大家の美人畫、乃至は彫刻等、今此獨逸、佛蘭西、瑞西、墺地利各博物館にあるのを見ましたけれども、古代のは私共に少しも美しひとは感じませんでした。

以上の身體を僞けて美しひと云ふのは、病的野蠻の觀念として取除きましても、繪畫なり、人物なり、第一の人は美なりと頌し、第二の人にはそうでもなく、第三の人には醜いとも感じます、御覽なさい、其理想標準は個人によつても違ひます。

私は一體醫學をやつて居る者て、美學の方面には甚疎遠でありますけれども、婦人美と健康の關係に纏りをつけ樣とするには、美學諸大家の說を暫時拜借せねばならぬ場合に立至りました。

美學の大學ハルトマン氏の說に從ひますと、人の物を見る標準、即ち個體的理想體は種々であつて、先つ假りに人生理想の變遷を六期に分けて、男女各意見を異にするとせば、此れて二六の十二、更らに地球上の人種が六つありますから、つまり七十二個の個體的理想體が出來ます、其他階級や、職業や、位置、時代的觀念の變遷等を乘しましたらば、驚くべき多數になります、先きに述べました種々の理想がありますのも、强ち無理もない事て。

婦人美に就ては、右の通り八釜しく、今てはやつと、美しと感する一定の形態を美と名くと云ふ所で折合がつく位樣々の議論がありますが、健康と云ふ事は此より餘程手輕く參ります。

身體の全部及各部分に亘りて恰好が取れ、各部受持の機能が完全に行れ、且外界の障碍に對し一定度迄抵抗し得るを健康と名けます。衛生學は此健康を保持する學問、語を換へて云へば、人間各機關の構造、及外界萬物の人間に及ぼす作用を詳にし、健康を保たしむると同時に外界刺戟に抗抵する力を養ふものでありまして（プラウスニッツ氏）、此健康の繩張りを飛び越した場合には、再び此を引き戻すのが治

療學であります。

此等は單に衞生學一般に就き述べましたので、特に婦人衞生學と命名します以上は、男女體格、體質、機能を異にする點に注意するの他、婦人が天から授かつた美の保護撫育も、斯學の下に研究せねばならぬと云ふのは、已に歐洲の輿論と成て居ります。

以上御覽の通りに、衞生學では身體的及精神的に調和が取れねば健康とは申しませぬ、然らば美學の方面てはどうか？

近世美學の鼻祖バウムガルテン氏は美を說明して、美とは圓滿なり。圓滿は宇宙の極致にして、眞、善美の因て來る所、圓滿は形式上より多と一との調和だと申しました。果然、美學の方でも斷然不調和を許しませぬ。

今迄衞生學及美學の上から、健康と美と云ふ事を一通り述べましたが、今度は何れも裏面から其調和を失つた場合を研究して見ましよう。

人身體が精神、身體の調和を失したるを疾病と云ふ。（シウマウス氏）詞を換ゆれば健康を失つたものであります。然らば、美學の方面では此場合を何う說明しますか。美學の泰斗ハルトマン氏はこう說きます。曰。凡そ個體の體格及び作用が、量の上より過大又は過小、換言すれば調和を失すれば醜なり。

以上二學の兩方面から論し來たものを、引くるめて手短かに云て見れば、調和が取れたのは美であり且同時に健康であると共に、其調和を失つたものは疾病でありやがて醜であるとは、已に明々白々で多辨を要しません。

此れで外形的の關係も一通り終へました。夫れて其內容、衞生學の方から云へば精神的、美學の方から云へば所謂質の事を少し研究して見ましよう。

身體外形の事は分つた。夫れては體格の調和も取るれば、白痴でも、瘋癲でも美かと云ふ間があるかも知れぬが、此れもさうは行かぬ。假令體格と調和が取れて、外形的美と稱する事を得るとも、病理解剖上少しも異狀を發見する事は出來ずとも、神經精

神に異狀があれば、已に健康と稱する事を許しませぬ如く、美學の方面からも、質の上の調和は矢張り八釜敷申す樣て御座ります。今から凡そ百年前の獨逸哲學の大家て、同時に美學にも蘊蓄深かつたカント先生の說を引用して見ますと、衞生學上身體的精神的に二大別するが如く、美にも優美と崇美の二つを區別されて、人をして快美の感覺を起さしむるや、優美は質に於てす、崇美は量に於てす、と說かれてあります。此內容を深く硏究するのは元來本篇の目的てはありませんし、隨分込み入つた議論になりますから、婦人生殖器より起る神經精神の異狀に就き女子敎育の任にある敎師に家庭の方にお願する事があつて、今腹案中てありますから、其條下てお話するとして、玆には一切略します。又人間美の此方面の硏究は、詩聖シルレルがアウグステンブルグ公に與へた二十七通の人間の美敎育に就きて論ぜられた手紙に詳しく出て居て、今ては一冊の書物として發行されて居りますから、此方に興味があるお方には御覽を願ふ事として、此も省きます。

夫れから鼻に穴を穿つたり、腰を細めたり、頭を平たくしたりする他に、體質自身には少しも變化をさせないで、美の目的に使れてる種々の方法があります。即ち髮の結び方や、言語や、擧動や、顏料の使用等て、顏料や髮油の內に含まれて居る毒物に就ては夫々專門の方が切りに硏究されて居りますし、美を殺ぐ事夥しひ吃りの矯正法等も、此頃餘程日本ても注意を喚び起したから、此等は皆專門の方に讓ります、此頃さる新聞て見ますと、巴里ては婦人步行硏究會と云ふのが起り、其主旨書に、從來步行とは單に身體を前方に動かすの意義に計り用ひられて居るのは甚だ聞へぬ譯て、本會はこゝを以て身體を整正し、病的の姿勢を治し、衞生的美的に步行の硏究を成す、と云ふ樣な事が書いてあります、世に一番美しからねばならぬ境遇にある歐羅巴の女優等が、其美を保護する爲には、衞生上に憂身を窶して、鏡臺の前に立つ時間よりも、運動場て種々の運動や、

體操に費すのが餘程澤山なのと較べて、さる米國の旅行家が日本の婦人を許して、世に稱するが如く日本の女子は果して美なり、然れども惜しひかな、大理石像に彫るべからずして、象牙彫りとして戸棚に藏し置くに適す。と云つたのに思ひ至れば、何となく小言も並べたくなりますが、此は他日に讓ります。

以上私は婦人美と衛生との關係を述べて、如何にせば美なりとの問題は本論の主旨てはありませぬ。八釜敷ひ議論は無くとも、今迄書に事を一通り御覽の上て、一度眼を閉ぢて髪の毛から足の爪先迄病氣と美と云ふ事をお考へになれば、此兩者が決して平行し得ぬと云ふに歸着すると同時てよしや今迄世に病的理想體が存在して居たにせよ、此等は盡く不自然たと云ふ事に思ひ到りましよふ。若し一旦身體精神の調和を失つたらば速かに專門家に乞ふて、健康と共に美の回復を計らるゝ共に、平素衛生上に注意されて天與の美を傷けられぬ事を祈ります。」

學窓成す事多くして多くの參考書を漁るの暇なし、他日尚興味ある問題を捉らへ來て相見るの期あるべし。巳の六月、伯林大學女科學研究室にて述者しるす。



▲蠅の驅除

蠅は實に嫌やなもので「コレラ」や赤痢の病毒が之によりて媒介さるゝことは誰も知り居ることながら未だペストの鼠に於ける程には人々が感じませんが御覽なさい蠅は腸窒扶斯や赤痢の大便コレラの吐瀉物ペストの排泄物肺病の痰や傳染性腫物の膿汁トラホームの眼脂等至る處舐め散らしそして吾れ〱の飲食物にたかる實に不潔極まり危險至極てはありませぬかソウてありますのにマダ人々の蠅に對する感情が鈍いには驚きます客などの參りましたとき蠅たゝ

きて漸く追ふて居る位が關の山ナント之れては傳染病もふへる譯けてはありませんか臺灣ては嘗て蠅の驅除に對し一足一錢の懸賞て一時大層效があつたそうですが懸賞までゝなくとも一家の主婦たる人々の注意にて蠅などは充分に驅除する樣に何れも公衆の衞生を發達させたいものです

▲兒童と轉地療養　三島醫學博士所説の一節に曰く、虛弱の兒童、病身の兒童病後の兒童此等の兒童の健康を恢復させるには轉地療養は恐らく最良の手段でありましやう單に轉地療養と云ふものゝ之れには氣候療法、食餌療法、空氣療法、溫泉鑛泉療法等の諸種の方法を含んて居るので轉地先きは宜しく然るべき醫師の指示によらねばならぬが兒童を轉地させたとて矢張り教育と養育とは決して離してはならぬ

▲伊香保に轉地さするに最も適應した者は貧血の兒童、營養不良の兒童、神經過敏の兒童及病後の兒童は其病氣により必らずよろしい夫れは高山て空氣が淸良だから空氣療法、氣候療法、含鐵鑛泉を用ゐて溫泉療法が出來又近年は飲食物の供給も可なり届いて來たから兒童の食餌療法も出來やうと思ふ

▲入浴の度數は兒童にもよるが初め少くも兩三日間は一日一回其以後とても二回を極度とし湯の中に居る時間は五分を超えぬようにせねばならぬ兒童に鑛泉を飲ませる事はまあせぬ方よろし

▲食物　穀物の外に多量の牛乳、鳥肉牛肉及び軟らかき野菜を用ゐ生の果實は年長の兒童の外用ゐぬがよい砂糖煮にしたものは少しはよい飲み物は精良の水、麥湯、飴湯、薄き番茶位で氷水、茶、コーヒーなどは與へぬがよい菓子は餡物砂糖のみを以て製したもの

▲水の消毒に就て　小久保惠作氏の學位請求の論文中水の消毒に關する論文は戰時尤も必要のものなれは今之を簡易に書き改め其大畧を記さんに

水の消毒に於ける研究には煮沸法、濾過法藥物消毒法等少からざるも行軍又は戰鬪中煮沸水若くは水道

を得ることは困難で去りとて水なければ渇死することがあります此場合にはたとへ有毒菌を含んで居る水でも之を飲用せねばなりませんそこで氏は無菌水を得べき單簡の方法を研究せんと欲し遊離沃度を以て不潔の水を殺菌したるに其色も臭氣も味も變りませんし且動物體にも危害なきの成績を得られたり此消毒法なるや既にクレーニヒ、バウル次てウイラ氏の軍隊に應用すべしと唱るあり其說によれば水一リーテル中に二五密瓦の沃度を加ふれば十分間にして腸窒扶斯コレラ大腸菌を撲殺し得べく佛國のセーン河水に加ふるも亦十分にして殺菌し得べしと氏は上記の實驗に基き一〇%の沃度丁幾を製し以てコレラ赤痢、腸窒扶斯、黄色葡萄狀球菌等を蒸溜水に混じ之に沃度チンキを試驗に各成績を三表に揭げ水一「リーテル」中に二五密瓦の沃度を加ふれば五分間にして腸管に來るべき三種の病原菌を殺し得べしと故に行軍又は戰鬪中に於ては二五密瓦の沃度を加ふれば十分間五〇密瓦を加ふれば五分間其水を放置したる後次亞硫酸曹達を加へ沃度を除去し其水を使用すべしと

醫學博士佐藤三吉氏には歐米の醫學社界を視察して此程歸朝せられしが其物語り中に

▲我國の患者は病院を下宿同樣に思ひ少し快方になると好みの物を食べたり笛を吹いたり偶々人が見舞に來ると菓子なとを出し附添人に命じて茶を入れさする風であるが歐洲では病院に入ればかゝる事は決してなくよく醫師の命を守り患者は治療に極めて熱心なりと

▲治療に手遲なし　西洋では中流以下の人になると病災保險が盛んに行はれて居るされば雇人の如きも右の保險に入らざるものは雇ひ主が少いと云ふ有樣であるから下女でも職工でも皆之には入らぬものはないされば少し不快だと云ふと直ぐに治療を受けるから手遲れになることが少ない日本では兎角診察料とか藥價とか頭にかゝッて來るから大槪の病氣でも怪我でも押し通し遂に手遲れになり癒る病氣も癒ら

ぬ場合が珍らしくなしと

▲獨逸の海水浴　中々盛んではあるが和蘭の浴場は一層大きく西洋の海水浴には浴場とホテルと遊樂堂との二ッが揃ッて居る遊樂堂の如きは宏大なもので約千人位も這入れるといふ

▲暑中腦の休養に就て　狩野病院長謙吾氏曰く芝居寄席は如何と云ふに場所の狹隘と空氣の不潔にて芝居の如きは悲劇の一點張りて歸宅後兎角眠られぬとか氣分が惡いとか云ふことになるが多く從ッて休養の目的にかなわぬ

▲散步　是も朝早く公園を歩くとか郊外に散策するならよいが縁日の逍遥の如きは肩摩轂撃と云ふ有樣て只塵埃と瓦斯の油煙を吸ひに行く樣なもの試に鼻孔の掃除をして見ると煙りや塵埃て眞黒となる是れては慰安にはならぬ

▲避暑旅行　是も其名の上からは尤も必要の事なるが苟も世間に名の知れて居る處は西より東より多數の人が入り込んで來て混雜するから其究窟より招く直接間接の害及び種々の病者と同室せねばならぬ衞生上の害は恐るべきである其上費用は目の飛び出す樣にかゝりては此等の土地に行きては寧も慰安とはならぬ

▲味官より來る慰安としては人々の嗜好如何にもよるが新鮮なる魚類及鳥獸其他の鮮肉を食することであるがこれは神經を興奮するのもあるから適度に攝取するがよい

▲發聲運動　謠曲、唱歌、詩吟、淨瑠璃、義太夫是等は血行を盛んにして消化機能を進め一には慰安の目的を達するを得べき屈竟の事柄であるが餘り心を專らにしてはならぬ

▲禪家の座禪　是れは我れの外に超然たる點は確かに精神休養の有力なる一事項であると思われる次に夫れよりも行ひ易きは轉氣去念の術とて情の表出を轉じるのである顏に皺を寄せるが如きは眉毛を右左に展開し總て反對に氣を轉ずる樣に心懸くるとを要すと

▲完全の休養法　これは無論睡眠である睡眠なるものは精神作用の完全なる休養て之に優るものは無く睡れる間は神經中樞は素より末梢部の各作用まで悉く殆んど休止して恢復の實を擧げるもので完全なる體の休養と云へば第一に數ふべきは休養の七分までは睡眠によると云ッて宜しいとなり

▲流行の小兒病　某小兒科の博士曰く本年六月より現今に至るまで小兒の間に一種の下痢發生し日々の患者愈々多きを加ふ此下痢症中には或は赤痢病あり或は普通の下痢に吐瀉をさへ併發するもありて非常に危險の狀態に陷るものあり是等は罹病の初期に於て十分なる手當をなさゝるべからず此病は多く五六才の小兒を冒し中には一年未滿のものを冒すもありて年少丈其影響は愈々劇しといふ

▲原因　此病因は未だ確かに分らず赤痢の如きは一種の毒に感じて發生するものなることは誰れも知る處なるが此以外の流行下痢に至りては學理上の原因は不明なるが其主なる原因としては先づ變敗せる食物にありて腐敗せる菓子牛乳及び哺乳器の不潔等によるものにて甚だしきは飲み殘しの牛乳を何んとも思はず時刻たちて飲ますもあり既に大學に入院せる小兒の内には强飯を食べさせたる爲め斯病に冒されたるものもありと

▲過量の食物と牛乳　氷水及び菓物の過食は往々病因を作ることとなれば過食は充分に謹まねばならぬ牛乳の如きは母親が先づ一旦飲みためしてから小兒に飲ますがよい往々變敗せるものや凝塊の見えるものなどありて小兒の之を嫌ひたることなどがあります世間只牛乳安きのみを撰ぶは誤りなり博士は十數年前試みに純良牛乳の代價を計算せしに如何に安く見積るも一合五六錢以下にては得難き理由を發見したることありしが今日は物價も騰貴し居れば七八錢以下にては純良牛乳は購ふ能はざるべし現に大學に使用せるものゝ如きは一合七錢にて純良のものを購ひ居るといふ世には子女を愛する餘り盛夏炎熱の候にも二枚三枚の絹の重着をなさしめながら廉價な

る牛乳に満足しつゝあるものもあるが經濟と儉約も科場合に依るもので夏の如きは浴衣一枚か帷子一枚て充分なるものなり只フワ／＼したる短かき筒袖を附し緩き紐にて結び置くやうにすれば足れり

▲食ひ合せ　昨今の流行せる下痢症などを起さぬ注意としては食合せとて假令へば薬物を食し直ぐ後とて多量の氷水を與へ或は何から何と第一の物を食ひ終り直ぐに第二のものをたべさする如きは斷じて禁ぜねばならぬ要するに小兒には火を通さゞる食物は決して與へぬ樣にせば昨今流行の下痢症の如き病氣を豫防することが出來ようと

▲小兒の腸加答兒に就て　瀬川博士の所説に曰く夏季には小兒が腸加答兒に罹り易い……其原因は不消化な物を食する爲めに、腸を害して加答兒を起す、無論食物は別して注意せねばならぬ、氷水、豆、芋の類は食させぬが宜く、魚も新鮮なるを撰ばねばならぬ、又肉類も多食せぬやうにすべし。

▲病の初期　此病に罹ると突然大熱を發す、平素痙攣の癖のある小兒は、忽ち攣つけて下痢を催し、隨分驚くやうな事がある、又其病症に依りて粘液やうの物を下し、續いて血液を漏らすがあれど、僅一回が二回で血液が出るとも、快癒する者もある、父母が小兒の血液を出せるを見て、直に赤痢にはあらざるかと、臆測する者もあれど、血液を脱出するとて、赤痢に罹れるとは云へない、此んな場合には、早速醫士を迎へて、診察を受くるやうにすべし。

▲應急の手當　小兒は普通下痢を起し易く又血液を出す事なきにしもあらず、熱を發して下痢を催したる際は、直に布團の上に寢かして、氷か水にて頭を冷し、腹部を温めつゝ、應急の手當を施し、速に醫士を招いて診察を受け、その命令に從つて嚴重に療養すべし。

▲食物　は流動物なる牛乳、葛湯、粥湯等を與へ、間食をさせたり、多食させてはならぬ、若し間食を嚴禁する事が出來なければ、腸胃を害せぬ食物を撰

び、時間を定めて少量に與へ、凡て飽食せぬやう注意すべし。

▲腸加答兒　は初め熱を起して腹痛を催し時間の經過せぬ時は食物を吐瀉する、斯く兆候が見へなば、醫士に托して治療を受けるが宜し、素人療治は危險の虞あるゆゑ、手療治をせずと、專門醫を招いて、療治すべし、又夜間寢冷をさせて、是が爲發病する虞あれば、小兒に寢冷をさせぬ心掛が肝要である。云々

山根正次氏の至言　氏は近頃都市の衛生設備と云へる題目の下に滔々卓說を述べらる

▲消毒風呂と消毒團體　是等は目下急務として要求するところにて彼の塵芥の運搬車、獸肉及野菜類の運搬車等の消毒は尤も必要にして吾人が折角滋養分多き肉類と思ひて之を食ひ反ッて病氣を購ふが如きは恐も又甚だし又各人の衣服使用器具も同斷にて特にペスト、コレラ、赤痢、チブス等は此消毒風呂又は消毒團の設立によりて其傳染力を防止すべし傳染して後千萬金を投ぜんより傳染を防ぐ爲めに百金を投ずるの利あるを見ると

▲東京と博覽會　戰爭紀念として第六回の博覽會を東京に開かんとの說をなすものあるよしなるも衛生設備の不完全なる是を以て東京が戰勝國の首都なりと世界に誇るを得べきか市中に於て內國人を宿泊せしめ得るは僅かに二三千人に過ぎざるべく外人の如きは多くも五六百人を收容するが關の山なり其他の內外客人には野宿して博覽會を見物せよとも云はれまじ宿屋已に然り今より三四十年後を期して後宜しく大に內外博覽會を開催せられんとを希望す云々

▲救急所　伯林其他歐洲各都市には何れも救急所の設けあらざるなし退いて我が東京を見ればまだ是等の設備なく冷淡なるは遺憾なりと種々內外に例證を擧げ

▲無宿人宿泊所　東京市には只淺草東本願寺に一ケ所あるのみにて無宿人の多數は一夜五六錢を投じて

場末〳〵の木賃宿に宿泊するが常なるが全體木賃宿は各人の病毒を交換する媒介所にして癩病、梅毒、赤痢其他諸種の傳染病は遠慮なく集り來りて一枚の煎餅蒲團に數人雜居寢して其間に病毒を交換す蒲團疊其他のものに附着せし不潔物を消毒することは年に一度もなしと云ふ有樣なり白耳義の如きは無宿女子宿泊所さへ設置されて各宿泊所には醫員を置き消毒其他凡ての用意到らざるなしとて一日も早く是等の設備あらん事を臨むと

▲次に家屋改良　日本風の家屋元より絶對に惡しきにあらず空氣流通よき點より見れば諸外國の建築法に一歩の長あれども其實人間の住家に適すと云はんより寧ろ鼠族の栖巣に適當せるを斷言するに躊躇せずと盲長屋の如き二枚敷一と間の所に六人七人の男女が下水便所と雜居する如きは人道の上より言ふも好ましきことにあらずして實に病毒の根源地なれば余等は常に之が撲滅に奔走しつゝあるもまた目的を達する能はざるを遺憾とすと

▲小供公園　近年漸く公園開け上野淺草、芝、日比谷など大公園の在るを示すに至れどもまだ子供の公園即ち町々辻々に小供の爲め小公園なきは遺憾なり小兒は由來運動を唯一の生命とせるものなれば父母等の制止を聞かずして人馬雜沓の街道に出てゝ遊戲を爲すより或は電車に轢かれ或は馬に踏まれて思はぬ怪我することを免れずされば小規模の設計に差支なし多くの運動場こそ望ましけれと

▲傳染病院　東京にて傳染病院の完全なるは只駒込病院一ッあるのみにては心細し歐米諸國にては各都市にては市の中央に多くの傳染病院ありて我東京の如く行通不便の郡村に病人を持ち行くが如きことなしと次に貧民病院の少きを概して大に大方の注意を惹けり

●姙娠の攝生

醫學博士　緒方正淸氏所談



▲産褥室　褥室は矢張産室と同樣に、空氣および光線の通過しやすい廣濶な居室を、それに充てるやうにして、室内の溫度は、分娩時に比して二三度位低い加減にするのがよいのである、またその室には成べく他の人を入ぬやうに、そして殊に側で仕事などをせぬやうにして、濕潤つたる衣服とか、布片とかを置ぬがよい、また煙草の烟も餘り宜しくないのである、でまた精神の保養といふとが肝要なのであるから、總て褥婦の精神を刺戟するやうな話は、禁物と心得べきで、晴天には、日に二三回づゝ窓、障子などを開けて、空氣を交換せしめねばならぬのである、併しそれも成べく直接に風の當らないやうにすべきであつて、時候の寒い時とか、不順な時とかには、隣室の障子を排けるが可い、それからまた線香を焚いたり、香水を撒散したりするのも甚だ宜しくないのである

▲衣服臥牀の交換　臥牀が若し濕潤氣になつた場合は、無論外のと取換ねば不可いが、殊に敷布などが、血液または分泌物のために不潔になつた時には、直ぐこれを取換ねばならぬのである、それから又た衣服、湯巻なども、時々取換る必要がある、何故かといふと、産褥中は多量の汗が出るもので、人一倍、否な幾層倍も濕潤き氣味になり易いからである、それてその取換をする際には、冬であると先づその着換の方をいゝ鹽梅に暖めておいて、若し身體が汗ばんでゐる時は、西洋手拭でゞもよくこれを拭去つてからのとにすべきであるて、褥婦の衣服は、前に述た産婦のと同樣に、淸潔であつて柔らかなフランネルか何かゞ可いのである

▲褥婦の臥位　わが邦では、昔時から褥室といふと、上半身を高く踡然と坐つて、所によつては、場合によつての區別もなく、その左右に箱などを置てからに、故らに身動きの出來ないやうにする習慣があるが、これは間違つたとて、貧血した婦人などであると、却つて頭部を低くせねばならぬ位のものであつて、若しそれが通例であると、稍や斜めに上半

身を高くする位の加減にすべきて、そうすると精神も爽快になり、惡露の分泌も都合よく、殊に咳嗽とか心臟病とかの時には、一層その方が可いので、下脚の浮腫たものには、また下脚ばかりを高くするのが肝要である、それでこの褥婦の臥位に就て、委しくお話をすると、この稍や肩胛を高くした背位・即ち斜めに上半身を高くするといふ位置は、分娩後における最良の安臥位であつて、かくして兩脚を閉塞すると膣口から空氣の進入することを防ぐものである、そして三日目位には側臥位になつても可いので、この側臥位は褥婦にとつて頗る愉快なものであつて、持續せる背位によつて子宮體の後方に屈曲するのを障へるものである、で、六日目になると始めて床上に座つて可いのである、そしてその離牀時期は、健康狀態や子宮の收縮如何によつて決せらるゝもので、直腸および膀胱の空虚な際にも、その底部の入口に突出せざるに至るまで、子宮そのものが收縮するのを待たねばならぬのてある、それを若し取急いで早く離褥すると、子宮の固定がまだ十分でないために、子宮脱を起す危險がある、でまた健康な褥婦は、衰弱したものより恢復の早いのは無論であるが、生殖器の復舊は、分娩陣痛の强弱、分娩の持續、哺乳などで種々の差異を來すから、靜臥の持續は一定することが出來ないので、それ〲褥婦の狀態て適宜に決定るべきてあつて、健康な婦人ては八日乃至十二日といふところが離褥すべき時期てある、曾てある產科院において、生殖器の復舊如何に拘はらず、只褥婦が十分に恢復を自覺した場合に、分娩後數日にして起立させて見たところ、少しも障害がなかつたといふとてあるが、此實驗は未だ多くの醫家の說を動かすに至らないで、一般には前述した如き靜臥持續の規則を適用してゐるので、多數の醫師は、會陰破裂の縫合後には、成べく會陰後部に惡露の溜るのを避るために、側臥を取らしめてゐるが、この場合には、是非兩脚をシックリと密着つて分離さゝないやうにせねばならぬのてある

▲身體の清潔　褥婦は前項でも述た通り、甚だしく發汗するものである上に、久しく入浴せないために、自然に不潔となるの虞れがあるから、時々溫暖かい布片で身體を拭ひ、殊に外陰部に貼けたガーゼ及び綿の類は、初めの中は一日に五六回、一週間後には二三回づゝ、必とこれを取換ねばならぬのである、それで若し褥婦自らこれを取換るならば勿論、他の婦人等にこれを托した場合にも、十分手を清潔に消毒しなければ不可いのである、假令創面が目に見えなくても、創傷は創傷であるから、防腐法を施して嚴重にこれを處置するといふヿを忘れてはならぬ、また腟內の洗滌の如きは、如何なる場合にも、助產婦であると必ず洗滌するなど〻誤解して、これも一つ舊式の產婆に戀々たる原因となつてゐるやうだが、これは例の產婆共が、新式の助產婦の營業を妨げやうとの觀念から、斯やうな說を言觸したものであらうと思ふ、それに五六年前までは、產科專門家及び產婆においても、悉く洗滌したものであるが、現今では、その惡露が生理的のものであるか、病理的のものであるかといふヿを鑑別した上でないと、決して洗滌はしないのである、併し外陰部および大腿等に血液などが附着してゐる場合には、そのまゝに置くのは甚だ忌むべきヿであるから、毎日一二回づゝ繃帶を交換するか、または清潔に拭はねばならぬので、それが若しも不潔な惡露を排泄するとか、或ひは傳染病毒が傳染したかの如き徵候があつた時には、直ぐに醫師の洗滌を受ねばならぬのである

▲褥婦の診察　分娩後は、別に變化がない時は、別段醫師を招く必要はないがその平常の時でも、助產婦の診察は受ねばならぬので、若も少しても異狀があつた場合には、助產婦の注意があらうから、その忠告のあつた際に、直に醫師の診察を受る必要がある、これまでのわが邦の風俗では產婆といふものは、分娩後には、小兒を沐浴させるのみと心得てゐるが、これは例の誤想であつて、助產婦は一週間乃至二週間は褥婦を見舞つて、體溫、脈搏、呼吸等を

検査して正規の經過を執つてゐるかゐないかといふとを見なければならぬので、褥婦もまた必とその検査を受ねばならぬものといふ觀念を有つてゐねばならぬのである。



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　在京　特別會員

問　私事折角壯健に相成候と思ふと間もなく突然急性大腸カタルに犯されいつも困難いたし居候赤痢の如き免疫性になる法は御座なく候や勿論腸洗滌はいたしたることもありまた平常便秘性につき醫士の注意のまゝ時候の變化を受けぬ緩下劑を時々用ひ居り候

答　赤痢の免疫法はプロフェッソル、クルーゼ博士が大に勸誘されて居る同博士は是迄豫防の目的として多數に實驗されて好成績を得たとの事である志賀醫學博士も千八百九十七年から千九百年迄同博士と同じく赤痢の純培養をもつて免疫した馬の血清を二百九十八人の患者に應用して下痢の度數と裏急後重とを減じ且死亡の割合を半減したとの事で其他ドクトル、デプネル氏ドクトル、ローゼンタール氏の如きも赤痢の血清を豫防の一方法及治療の目的に使用することを勸誘して居りますから今に此事も行はたる事と思ひます

第二問は此次迄御預り

質問　東都の一會員

問　傳染病によりては夫々傳染する入り道ちが違ふ事と伺ひ居りますが何卒くわしく御敎示願上候

答　傳染病の傳染する入り口は病氣により御說の通り違ひますが第一は創傷口より侵入するもの（破傷風、丹毒、脾脫疽、マラリャ「是れは蚊にさゝれ」梅毒、淋病、狂犬病）で是等は丈夫な皮膚にはうつりませんが皆創傷から傳染するのであります

第二には消化機から來るもので（腸窒扶斯、コレラ、赤痢）是等は多くは水或は飲食物より來る病ひであります

第三には呼吸機から來るもので（肺炎、流行性感冒、天然痘、實布垤里亞、風疹、痲疹、水痘）是等は皆呼吸機から傳染する

第四には右の一、二、三の何れからも傳染するもので（ペスト）及結核等であります

浦賀の一會員へ

前々號質疑欄牛肉、魚肉の養價に魚肉一キログラムの內其肉は僅かに四百四十五匁丈とあるは百四十五匁の誤植にて尙牛肉一キログラムの代價安きに過ぐるとは御尤もの事で是れは餘程以前肉類の安き時代に丹波博士が計算されたものでありますから今日の相場と違ひますのは無理はありません先日高崎の會員から質問がありましたから古き時代の計算を其儘出しましたのですから此事を書き加へて置かざりしは誠に疑念を抱かれるのは御尤でした只右の比較は魚肉と牛肉との標準は分析上こんな比例のもんだと云ふことを御承知下さいまし

質問者　神奈川　一會員

問　やけどはおまじないで治すものがあると申しますが果して効能のあるものや又夏のやけどは膿み易いとの事素人の心得に御敎示願上候

火傷にもよりきりですが一寸と赤くなッた位なら自然にも癒りますがおまじないなどで決して治るものではありませんかゝる事は御信用なさッてはいけません火傷には三種あります一番容易いのが皮膚が赤くなるので其次ぎが水腫れ其次ぎが焦げて黑くなるのです先づ湯をかけて赤くなッたのは極く輕るいのですから其場合に水の中に手を入れて冷やせば大變

に痛みは止り都合よく往けば癒ッて仕舞いますソレから醫者の處へ往くにはソウ水の中へ入れきりて往く譯けには參りませんし空氣に觸れると其刺激の爲めに痛みますから何んても構ひませんから清潔な油を御塗りなさい

次に水腫れは少し重い方の火傷て兎角夏季などは膿み易いのですから其水腫れを素人は破ッてはイケません醫者が破るのは夫れ〳〵器械にても消毒してかゝりますから膿ませる樣なこともありませんが素人が破ると多くは其中に毒を入れ膿ませる事になつて思はぬ不幸を見る事があります

其次ぎの黒く焦けたのは其痛みを止めるには矢張り水に入れて黒き處のとれぬ樣にしてはやく醫師の治療を受けねばなりませんコレは素人が中々手を付けることは出來ないのであります

米子の一會員へ

胃病に就ての御質問ですが御手紙の模樣ては大分永くから御なやみかと思はれますが御年はいくつて入らッしやいますか専門の醫師に御診察を乞はるゝ必要があろうと思ひます胃部の堅くなる點はいろ〳〵の原因から來りますからよく見て御貰らい遊ばされよ紙上ては判斷は出來ませぬ

質問者　信州一會員

問一　蜂蜜と申すものは如何なる効能のあるものにや世人は色々と申し或は身體の虚弱のもの或はいきゝれするもの又胃病或は病後等に用ゐて功ありと申ますが如何なる功がありますか

問二　齒磨粉は色々ありますが世間に澤山あります「タイヤモンド」又は「ライオン」其他いろ〳〵の者がありますがかゝるものは衛生上如何なるもので御座いますか又何と申すものが宜しくありますか御教へ願升

答一　蜂蜜は御説の如き効能は大してありせすまい夫等の病氣には今日てはモット善いものが澤山あります民間では膿を醸す病氣や側面の治療劑とし又醫家は唯塗布液又は含嗽水に甘味を付ける料

に用ゐます併し蜂蜜は一種の營養物には相違ありません大量を攝取しまするど通利の効がありますが前にも申しました如く現今にては主として調味藥及丸藥煉藥等の甘味を付ける配伍料に供するばかりであります

答二　齒磨粉は實に種々なるものが澤山ありますが要するに齒を磨損ぜしむる樣なのはいけません「ダイヤモンド」又は「ライオン」齒磨などはドンナものですかマダ分拆して見ませんから良否を申し上げる譯けには參りませんが私が好んで使用して居りますのは嗽玉散と申してドクタル伊澤信平氏の創製されしものですが之れは信用ある人のこしらへたものですから勿論無害で薄荷が這入つて居りますから誠に口中がすゞしく齒の惡しきものも此齒磨をつかつてから齒のきたなくなることがなくいつも奇麗になッて居ると喜んで居るものが澤山あります實にソーてす併し齒を磨くときは少しくゴツ／＼する氣味がありますが夫れは止むを得ません

問　慢性胃加答兒には平素如何なる養生法を致してよろしく又治療致すものに候や伺上候

質問者　愛媛　一　會　員

答　此病氣は嚴重に食品を節調し久しく之れを實行せねばなりませんソして脂肪氣の多いものや苛烈性の食物や御酒や豆類はいけません野菜は成るたけ少くしてなれのよきものゝみになし飲み物は又多過ぎてはいけませぬ先づ乳汁脂肪少きツップ半熟の卵子などは佳なるものでお酒のお好きな方はお酒を斷然止め始終坐ッて居る御方は運動をなし毎日の便通をよくし胃の洗滌をするも大によい貧血の御方は鐵劑を用ゐ按摩、冷水療法カルヽス泉等を用ゐてよし要するに此病氣ある人は他の心臟病や、肝臟、肺病、萎黄病、貧血等の病氣がありてはいけませぬからひどくない内に是等ははやく直して置かぬといけませぬ此の樣によく養生法をお用ゐになれば必らず癒らぬことはあり

ません

問　私の知人兎角血の道がつよく物を心配することと多く何ほど慰めても治り申さず右は如何致せば治療致し候ものや何卒御敎へ下され度願上候

質問者　新潟支會員

答　此病は女に多くある俗に申す血の道の高じたもの即ち「ヒステリー」と云ふ病ひでしやう此病ひは徐々に發するものですから一寸と分りにくいのです此病ひは意思がいろ〳〵に變じ或る時は忽ちに悲しくなりて泣き出したり或る時は忽ちに愉快となりて元氣よく或は小事件も考へ過ごして精神を勞し種々の神經痛や神經の感じの鈍い處が出來たり或は痙攣を起すこともありて知覺の麻痺の部分が屢々移轉することなどがありますコレニハ精神を安靜にならしめて少しにても意に介することを除き醫師の治療を受け充分の慰安することを要するの外ありません

質問者　大分縣の一會員

問　私知人此頃時々胸もち惡しく熱ありて下腹の大いに痛む時あり誠にこまります月經等は隨分多くある時も御座いますが右は如何なる原因にや伺上候

答　是れは察するに何れも子宮に多少の異常があるのか知れませんから專門の醫師に診察して御貰ひなさい急性の子宮實質炎などでありますと其痛みは起ちたり歩行たりすると餘計痛むものです又尿意は頻りに催し月經は閉止するも時としては多量にあることもある其原因としては感冒、淋疾、局部の損傷…等より主に來る痛むときには氷嚢にて下腹部を冷やし又は蛭を付けなどすることあるも是等は皆醫師の指圖を受けらるべし

質問者　在京　通常會員

問　月經になります前には兎角お腹が痛たく候へども是等は致し方なきことにや伺上候

答　月經になる前腰部下腹等に多少いたみあるは是れは生理的に起るもので赤ん坊を生む時に大層お

腹の痛いのと同じて只痛みが小さいばかりの違いてコレハ止むを得ないのですが又人の性質によりては痛まぬ人もあるケレ共其痛みが劇しく腰足等が引つれさし込みなど起すものは子宮病の前徴なればかゝるときは下腹部に罨法を行ひ或は食鹽水若しくは芥子湯の熱きものにて坐浴をなせば苦痛を去ることが出來ます



●危險の豫防

本篇は本會濟尾副會長の說として「おんな」雜誌に記載せるものなり時節柄適切の問題なれば玆に同雜誌より轉載して同感を表す

世の進步に伴うて、工業が隆盛になり、交通機關が發達するに就いては、危險の度も之に伴うて高まるは、已むを得ない趨勢で御座いませう。されば此危險を豫防すべき設備が今日必要となッて參りました。砲兵工廠に於ける此程の災害は、非常な出來事て御在ました、實に危險は常に社會を襲ひつゝあると申しても宜しいと思ひます。殊に近年東京市中だけても、不時の災害に遇ッて、負傷する人が少なくありませんが、斯る人達を救護するよき方法が未だ開けて居りません。先づ負傷者があると、誰かゞ交番所に走ッて巡査を招いて來る、巡査が來たところが、手を下すことも出來ないから、巡査が其儘醫師の家へ走ッて往ッて來診を乞ふ。夫も丁度醫師が其近處にあるとか、又は在宿ならよいが、さもない時は、處々を巡査が駈廻ッて漸く一人の醫師を連れて來る。其內には手當が後れて事が重くなり、甚しきは助かる命も助からなくなりませう。家屋の危險を防ぐが爲には消防制度が組織してあッても、人の危險を防ぐがための豫防制度が未だ無いのは、社會組織上一の不備と思ひます。開く所によりますと、西洋の繁華な都會では白十字と云ふものが組織されて在りまして、緊急車が出來て、其車の中には繃帶材料や藥等十分備へて在ッて、醫師も詰め合して居り、危險

に遇ふた人があれば誰れでも電話なり報知器なりて其處に通知すると、其の車に醫師が乘ッて、現場に驅けつけ、應急の手當を施すことになッて居るさうでありますが、日本でも漸々には斯樣な仕事を慈善事業の中の一の仕事として何れかの會で設けられるやうになりたいものと思はれます云々

●夏の衞生

醫學士　竹中成憲君寄送

●夏の病

▲急性腸胃加答兒　最も多く見る所の病にして例の「腹下し」なり、暑氣の爲め飲食物變敗し易く之を捨つるを惜しみ又は知らずして之を用ゐ本病に罹るを例とす

重きものは「コレラ」に疑似し屢々生命を絕つ事あり

何れの地方にも毎年本病ありといへども本年新潟縣南魚沼郡に於ては最も劇しく一村數拾名を出し稍重きものは悉く死亡せり

小兒は兎角不潔なる水をも厭はず親の識らざる時之を滿腹し本病を發するものなるを以て常に生水を避けしむるやう敎訓を加へ置くべし

「一例」千葉縣市原郡姉ケ崎町齋藤幸吉なるもの先月入營の爲め町内のもの四十六名餘にて祝杯を擧げ一同折詰をさげて歸途につき何れも家人と共に折詰を食せしに之れが爲め中毒者二百餘名に達し死者六名を出せり右は全く海老の「きんとん」等蛋白質含有物が數時間の炎熱に遭ひしため腐敗して有毒なる蛋白に化せしものにて之を食せしものは或は激烈なる吐瀉を起し或は心臟を犯されて死者を出す迄に至りたるものなりといふ

▲赤痢　多くは毎年新に病毒を他所より持來るものなり、他鄕へ出稼のもの病みて歸鄕するときは善く〳〵注意して赤痢病なるや否やを探るべし一人を隱したるが爲めに其害毒を全村に及ぼすの例多し

赤痢は初期のうちに醫治を受くれば決して死すべき病にあらず又總て煮沸したるもの丶み飲食するときは之に罹る事なし

▲コレラ　亦夏の病なり『諸事』赤痢と同一なり

▲脚氣　脚氣は地方に據り流行する所とせざる所とあり

東京の如き最も多し地方より行きし學生にして之に罹らざるもの殆んどなし急性なるものは電報に接して上京せる親族にして生前間に合はざるもの多し

何人も下肢に痲痺を感ずるものは診を受くるを要す

▲恙虫(あかむし、長岡しまむし)　是亦夏の病にして新潟縣信濃川、阿賀野川の沿岸にある事は人之を知るも魚野川浦佐附近に流行する事は知らざるものあり

本年緒方博士、淺川博士、宮島理學士等特に出張して其原因を研究されつ丶あり

●夏の飲料

▲水　最大切にして最危險なり『衛生の根本は水に在り』といふべし、赤痢、コレラ、腸チフス皆之に據て發生す殊に便所に近き井戸の水は恐れざるべからず夏期は必らず沸し冷して用ゆべし沸せば其味惡しといふは沸して其器を密閉するがゆへなり善く攪き廻し又は瓶に入れ栓を爲さずに振れば空氣を混合して其味美くなるもの也

新潟縣南魚沼郡八海山の麓なる城內村及び六日町附近なる四十日村にては古來迷信あつて八海山神は井戸と麥を嫌はる故に井戸を穿たず又麥を作らず四十日村の鎭守八幡亦井戸を嫌はるとて兩村共に井戸なく小川の水を飲料に供す故に前村の如き明治三十二年赤痢の大流行を來し一村の患者貳百四十人、內死するもの八拾人治療費のみ費す所四千圓、縣廳より下附せられたる金額貳千圓ありたれども所謂「燒石に水」村の經濟大困難を究めり若し玆

村煮沸水を初より豫防的に用ゐたらむには此災害を免かれたるに相違なし
此以外に多數の無届患者ありたるものと見れば豈寒心せざるを得んや
▲麥湯　同地方概して麥少きも今は前記八海山の麓にも麥を作る事となれり
盛に麥湯を奬勵したきものなり
▲ラムネ　新鮮なるものは良き飲料なり、然れども中に入るべき酒石酸の價高きを以て價安き硫酸を使用するものあり又砂糖高きを以て砂糖よりも數百倍甘く隨て價安きものにしてサッカリンといふものを使用せるものあり此頃東京に於て之を檢したるに幸に之を使用したるものなかりしといふ又ラムネは製造の際鉛の管の中を通過するを以て鉛の含む事あり故に毎日硫酸を吞まされ養にも何もならざるサッカリンを以ッてごまかされ事實に於て有毒なる鉛を口にせざるべからずと來てはラムネも注意すべきものならずや宜しく以上害物有無の檢査を乞ふて而して後始めて用ゆべき也
ラムネは貯藏法大切なり決して日のあたる所に置くべからず暗き冷所に貯へ少したりとも濁りたるものは之を用ゆべからず
▲麥酒（ビール）は日本に於ては頗る高價なる飲料なれども經濟の許す限は之を用て良しラムネと同じく新鮮なるものを選み暗き冷所に貯へ濁りたるものを用ゆ可らずビールは身體を肥滿せしむるを以て肥滿症の人には良しからず
脚氣の豫防藥となる事は久しき以前より予の確說也
下痢症のものには宜しからず
▲氷雪　氷雪は之を以て飲食物を冷却するに供し、氷雪其者を喰はざれば頗る文明的なれども貧乏なる我社會に於ては言ふべくして行ふべからず
明治二十八年新潟縣令五三號に氷雪營業取締細則あり三十二年五八號にて少しく改正され三十六年に到り氷のみ食用とするを許され雪は全然食用と

して禁止されたり

予は越後の如き雪國に於て冬期の清潔なるものを貯へたるものを夏期食用と爲すを禁ずるを「不可」とするもの也

禁じらるゝもあらゆる手段を以て之を得、密に食用とするもの必らず少からず彼等は之に由て「檢査を經ざる不潔なるもの」を食する事となる恰も賣淫を禁じて同時に廢娼を唱ふると同一なり何となれば事實として新潟縣に於ては「氷」は一二都會の外之を見る事能はざれば也

又名こそ雪國なれども夏は屋內九十度を超ゆ此暑氣に氷なく數百年來慣用したる雪を禁じられては貧民の苦痛察すべきものあり氷なき地方にては該令を解くを可す

●夏の食物

▲**果實**　未熟のものは惡し煮沸水にて洗ひ皮を剝ぐべし、多食すべからず

▲**野菜**　生にて食するものは注意すべし、流行病附近にあらば煮沸水にて洗ふべし「ジユンサイ」(蓴)すら沸騰湯にてすゝぐも味佳なり、「瓜もみ」危險也

▲**刺身**　海に遠き地にては無理なり、流し元に煮沸水を備へ調理すべし

▲**豆腐**　奴豆腐危險なり煮沸水を用ゆべし

▲**心太**　(ところてん)多食すべからず

▲**麵**　「めん類」同上

●夏の害物

▲**蠅**　(はい)は食物の上に不潔なる脚を以てとまるを以て傳染病の媒介を爲す

▲**蚤**　(のみ)の爲めにペスト傳染する事あり兎に角蚤蠅多きは其の家不潔なるの證、虱更に然り

▲**蚊**　(か)は「マラリア」(おこり)を人にうつす

▲**下水**

▲**掃溜**

▲便所（就中其戸の「つまみ」を清拭すべし）
以上清潔にせざるべからざるは勿論なり國の文野貧富は之に據て直に評價さる
赤痢、コレラ、腸チフスの流行に於て便所よりも更に傳染の媒介を爲すものは便器也
▲便器（おまる）即ち「おかわ」を取扱ふ手は實に病毒の根源たり宜しく爪を剪み消毒藥（二十倍石炭酸水）を使用せしむべし（明治三十八年八月）

中外彙報

▲清潔及消毒方法　傳染病豫防法及施行規則改正の結果其豫防方法應用權限等は從來に比し一層擴張したるが消毒方法に關しては從來の取扱ひを非認し左の如く規定したるを以て此際當該吏員は充分注意すべしと

第一、清潔及び消毒方法中昇汞水をフロキシンにて着色するとを改めスカレツト又はツイレフクシン等にて着色せしむる事
第二、生石灰末を床下芥溜の消毒に用ふることを廢止したる事
第三、石灰乳の用量は是迄生石灰末の五倍たりしを吐瀉物等の容量四分の一以上と爲したる事
第四、木灰は將來消毒藥とし使用せしめざる事
第五、革類及び革製品等は是迄曹達石鹼にて洗ひたることを改め加里石鹼又は綠石鹼を用ふる事
第六、普通石灰は生石灰を得ること能はざる場合に限り代用として其倍量を用ひしむる事

▲全國の赤痢　衛生局にて去十二日の調査に據れば一道三府四十三縣下に於る本年初發以來の赤痢病患者總數七千四百廿四名にして昨三十七年同期間の四千五百一名に比し約三千名多し殊に大阪、兵庫、長崎、群馬、愛知、靜岡、山梨、熊本、鹿兒島、廣島、千葉、茨城、滋賀、岐阜等の各縣下は續々新患者發生するを以て今に於て官民協力之が撲滅を講ずるにあらざれば來る九、十月頃に至らば數十萬の患者を見るならん各地方の同患者統計左の如し

	卅七年患者	卅八年患者		卅七年患者	卅八年患者
北海道	八	七	東京	二七四	一八二
京都	六四	七八	大阪	六四	一九八
神奈川	一九九	三〇一	兵庫	五六	二六三
長崎	一八二	二八四	新潟	一一五	一二八

埼玉	七五	一七五
千葉	一九二	一七一
栃木	一三一	八四
三重	一二	六五
靜岡	四三〇	一四一六
滋賀	一二	一二二
長野	一五	八七
福島	一〇二	七〇
青森	四四	二三
秋田	五三	一六
石川	二三	一七
鳥取	九	二
岡山	二九	四〇
山口	一〇〇	六七
德島	一二〇	四四
愛媛	六二	七〇
福岡	六一	一二八
佐賀	一	三七
宮崎	七二	二二
沖繩	一	六
群馬	一三五	二六八
茨城	一三五	一四一
奈良	二	八八
愛知	三六〇	四九九
山梨	三九六	二五三
岐阜	八四	一一六
宮城	九一	二六
岩手	四一	一九
山形	三二	五五
福井	一三	五九
富山	八	三
島根	五	九
廣島	一八四	一四七
和歌山	七五	一三六
香川	一四	九二
高知	四四	二〇
大分	一三一	三〇
熊本	一七〇	二四二
鹿兒島	七二	二一八
合計	四五、〇一	七、四二四

▲面白き統計　英國の醫家ベッドウ博士は此程さる雜誌に下の如き統計報告を揭げたり其の統計によれば同國にては近來結婚の機會を得るに成功するものは概して色白き婦人よりも色黒き婦人にして其は啻に皮膚のみならず髪の黄金色も漸く漆なす如きを好むに至れり云々之によりて之を見れば同國に於ては一般の男子が其妻を擇ぶに色黒き婦人を歡べる傾向あるは疑ふべくもあらず此の氣風は軈て獨、佛、瑞の各國にも流れ入りしか如しと（日々新聞）

▲韓國赤十字社總裁の推薦　韓國皇帝の企圖に依り韓國赤十字社病院設立の件は既報の如くなるが其總裁として義陽君殿下及び李載覺氏の二名を推薦したる旨去十四日駐韓林全權公使より通報ありたるよし

▲東京市郡傳染病　本年一月一日より七月二十五日に至る各郡市傳染病　患者發生數を表示すれば左の如しと

區郡	赤痢	赤痢疑似	腸チフス	猩紅熱	痘瘡	コレラ疑似	實不的里亞	ペスト	計
麹町	四	六	一六	四	一	—	四七	—	七八
神田	一〇	一三	三三	一三	—	—	七四	—	一四三
日本橋	二	一	二八	二	一	—	四二	—	七六
京橋	一二	—	三一	三	—	—	四〇	—	八六
芝	一四	九	三六	四	—	—	六八	—	一三一
麻布	一	九	一七	五	—	—	二四	—	五六
赤坂	三	一三	一五	二	—	—	一九	—	五二
四谷	四	一〇	二	一	—	—	一四	—	三九
牛込	九	一	二一	—	—	—	三〇	—	六一

小石川	一五	七	五五	—	—	—	七七	—	一二四
本郷	一二	一二	四六	三	一	—	五五	—	八八
下谷	八	一五	七	二	—	—	六七	—	一一九
淺草	四	八	六	五	—	—	六八	—	一二五
本所	四	—	二	一	—	—	七五	二	一〇四
深川	六	二	三三	—	—	—	四〇	三三	七四
荏原	一五	二	六	—	—	—	四三	—	八九
豐多摩	一	二	二	—	—	—	二四	—	四一
北豐島	九	—	九	—	—	—	二九	—	七七
南足立	—		六	—	—	—	三	—	六八
南葛飾	二	二	二七	—	—	—	二七	—	五八
西多摩	—	三	一五	—	—	—	五	—	二三
南多摩	六	八	一八	—	—	—	四	—	三三
北多摩	三三	二	四〇	—	—	—	四	—	九九
合計	一六三	一二四	九九三	二六	三	一	八七七	五	一六〇三

因に同期間に於けるペスト鼠發見數は神田一、本所二十、深川六五なりきと

▲貸長屋建築取締規則　過日來警視廳に於て開會せる防疫評議員會の特別委員に於て調査中なる貸長屋建築取締規則の要旨は左の如し

第一　市内各樞要の場所にある貸民屋は全部年限を附し他に移轉せしむる事

第二　現在の貸民長屋に對して移轉期限迄は充分に修理せしめ空氣の流通光線射入を圖らしむる事

第三　貸長屋の間口は一間或は九尺と爲す事

第四　同規則に基き今後新築の納屋は窓を多く設備せしめ空氣の流通及光線の射入を能くせしむる事

第五　隣接長屋との間に於ける路次の區域に對し制限を附する事

第六　下水溝等の設備を完全にして汚水の掃除を能くする事

第七　同共同便所に對しては改造を命じ清潔にせしむる事

第八　飲料水及消火防備等外數十項なりと云ふ

▲我軍の衛生狀態　滿洲に於ける我軍の衛生狀態は極めて佳良にして雨期兼夏期なるにも拘らず各種の傳染病は殆ど之なく唯だ脚氣患者の稍や增加するを見るのみなりと云ふ

●浦賀のペスト豫防　千葉縣海上郡浦賀村のペスト病發生地につき交通遮斷住家總數九十八戶此內內務大臣の認可を受け特別處分を實行せる家屋は燒棄四十一戶及納屋七棟屋根の全部を剝離し其藁を燒却せしもの四十六戶及納屋八棟等なり

▲各種の傳染病　時下不順の爲めか赤痢は諸所に發生しペストも本所深川に未だ其巢窟を脫せず寒心すべきなり又虎列剌病も發生の傾ありと此際各自の豫防一層注意すべきなり

▲同仁會の醫師差遣　同仁會にては清國廣東省汕頭

所在湖汕道路公司の依頼に依り醫師福田均哉及び産婆松村とりの兩氏を差遣する事に決し孰れも本月上旬出發せられしよし

▲赤十社　總會は來十月若くは十一月の交を以て大に東京に召集することに内定せりといふ

▲口絵の解　下圖は朝倉博士の寄送にして獨逸ユングフラウ登山電車なり此電車は一九〇三年夏氏の昇られしときは二八〇〇メートル迄なりしが同年秋期には三二〇〇メートルの高さ迄達せり而して此トンネルの入口よりは鐵軌蜿蜒迂回して幾億年不滅の氷山中を急勾配を以て昇ること約一二〇〇メートルなり其間諸處景勝の地點に於て電車は氷山中より出でゝ眞に雄大なる天眞の景色をして盡く展望に入らしむ其奇觀絶景且つは雄大なる吾々の想像の外にありと

▲學位授與　論文提出の上醫學博士の稱號を得られし諸氏は左の九氏なり

木村德衛　澤田敬義　志賀潔
小久保惠作　松岡道治　森正道
林春雄　緒方正清　岡田榮吉

寄送書目紹介

●第十九世紀戰疫小史

東京市京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會長與文庫發行　定價拾貳錢

本書は大日本私立衛生會幹事委員醫學士柴山五郎作氏が同會の爲めコーレル文庫中より第十九世紀に於ける戰疫を詳述されたるものにて戰役と惡疫流行の恐るべき結果を詳細に論述したるものなり故に今次の日露戰役に對しては唯一の參考書と云ふべし

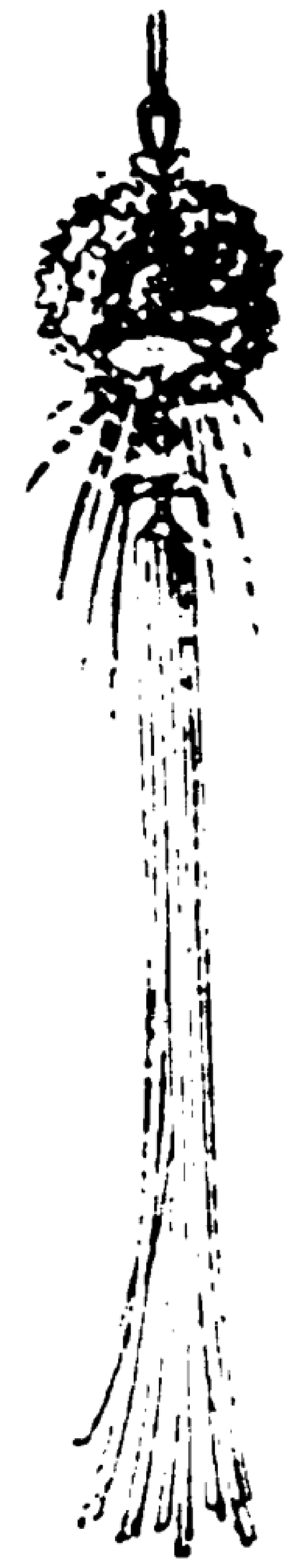
●家庭衛生　衣食住

慶松勝左衛門著　定價五拾錢（一九四頁）

發兌　本郷區森川町一番地　育成會

卷首に夫人令孃の對話せる美麗の彩色畵及二三の網版あり要は人世に尤も必要なる衣食住に就き詳細に說きたるものなれは本書は衛生上の價値に止まらず又一家の經濟策を講じたるものにして第一編には人體の構成分より說き起し食物消化、標準食料の獻立より食品の分析表を擧げ第二篇には衣服に關する

とは勿論化粧料海水鑛泉浴等に及び第三篇には住居に關し直接間接の事項を捕捉して說示されたる良書なり



大日本婦人衛生會記事

高崎支會報告

第三十四例會　七月九日（日曜日）午前九時より高崎高等小學校に於て例會を開く星野會長開會を告げ講師塚越正六君前會の續き二病の侵入門と題して一ペスト、丹毒、破傷風、狂犬毒の四症に就き懇篤に講話せられ大に會員の感動を惹けり同十一時過ぎ閉會を告ぐ此日出席の役員は左の如し

星野、齋藤、三橋、相川、稲垣、相澤の諸氏

講師には塚越藤崎の兩講師なりしと



●本會入會者

○大學諏訪なみ子紹介

●秋田縣鹿角郡大湯村　通常會員　汲川みわ子

●麻布區山元町三十三　通常會員　今みつを子

○事務所へ申込

●廣島縣比婆郡東城町字備中町　通常會員　横木民子

●四谷區鮫橋二丁目三　贊成員　山田信夫君

●佐賀縣佐賀市松原町成美學校寄宿舍　通常會員　菅野雪子

○京橋白神しげ子紹介

●府下豐多摩郡戸塚村源兵衛向原　通常會員　栗田さだ子

○神田大關ちか子紹介

●神田區錦町東京看護婦會　通常會員　山尾ふみ子

○京橋越智寧子紹介

●神奈川縣程ケ谷東京ビール會社々宅　通常會員　村田香子

○日本橋大八木幸子紹介

●本郷區湯島天神三ノ一　通常會員　神門たみ子

○澤田よし子紹介

●高崎支會入會者

●高崎市田町　通常會員　國峯ちか子

○小林春造君紹介

●仝市住吉町二十　通常會員　北爪たき子

○天利いし子紹介

●仝市椿町十　通常會員　高柳よし子

●仝市仝町一　通常會員　後藤はま子

○山内ふさ子紹介

●仝市下横町　通常會員　田邊梅子

○戸塚民子紹介

●仝市宮元町百九　通常會員　添田ふさ子

●同支會會員種類變更

●特別會員改　終身會員　三井田ふみ子

○新潟支會入會者

○若杉評議員紹介

●仝市大川前通七番町　通常會員　伊藤しづ子

○幹事瀧川たま子紹介

●新潟支會舊乙ノ部會員　通常會員　若月改　鵜飼すみ子

●仝上　通常會員　佐藤よし子



●轉居

●芝區三田綱町十へ　高山愛子

●本郷區東片町百三十四へ　駒杵三春子

●芝區高輪車町二十七へ　加島絹子

●相模鎌倉坂ノ下拾番地へ　江口糸子

●石川縣金澤市鷹匠町第五十八救護班宿舍へ　桑名まき子

●牛込區市谷田町三ノ十九へ　勅使河原君惠子

●四谷區東信濃町十へ　宍戸幸子

●廣島市河原町三百十三魚松樓第十六班へ　池田讓子

●神田區三崎町一ノ一村松方へ　久保登茂子

●赤坂區青山南町六ノ八十七へ　竹中春子

●本郷湯島天神町一ノ五十二へ　萩原五百枝子

●麴町區富士見町二ノ十六へ　湯地照子

●大坂市北區上福島北二丁目二三一九へ　白藤りく子

●大坂市東區玉造仁右衛町千七百九十一へ　作よし子

●兵庫縣神戸市兵庫羽坂通三ノ二松本氏方へ　清水住江子

●長崎縣立高等女學校内へ　平山禎子



第十九世紀戰疫小史

全一册

定價金拾貳錢
郵稅無料郵券
代用一割増一
錢切手に限る

戰役の一たび起るや惡疫の之に伴はざるはなし其甚はだしきに至りては砲彈劒尖に斃るゝ軍人よりも寧ろ其惡疫の爲めに生命を殞すもの却て多きの悲境を呈す豈に寒心すべきことならずや本書は醫學士柴山五郎作氏が本會の爲めに第十九世紀中世界に於る重もなる戰役に伴ふ惡疫の經歷統計等を譯述し會員の參考に供せられたるものにして今次の日露戰爭に伴はれんとする戰疫に對し一大警鐘として更に世耳を聳たてしむる爲め茲に之を發售す請ふ其反響を聞け

京橋區宗十郎町七番地

大日本私立衛生會

長與衛生文庫

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上等及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上等及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を増進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地 猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第一日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は賛成員となすへし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員の質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲けさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會 茨城支會規則

開設の趣旨及目的 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望んとするには必ず衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已 ●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く ●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得 ●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし ●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす 終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月拾五錢を納むると ●男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす ●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得 ●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし) ●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す ●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む ●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし ●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし) ●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし ●茲に記逃したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立　水戸市上市川見小路二十五番地　茨城支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に協し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く ●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條 當支會に於て衛生其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす ●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす ●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員改撰會務の報告等をなす ●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし ●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし ●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條 會員又は會員外より會員物品の寄附ある場は之を受納す ●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を嚴實に履行すべし ●第十八條 特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地　高崎支會

第二十三回産科婦人科學講習

科目　産科手術學及婦人科診論す
時日　十一月廿日より十二月廿日まで毎日午後六時より八時まで
資格　醫術開業免狀所有者

右廣告す

規則書御望みの人は郵税二錢御送りのこと

東京市日本橋區濱町三丁目七番地
産科婦人科　楠田病院教室

速記應嘱

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり◎女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家飜譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麹町區富士見町五丁目九番地
佃速記事務所
電話番町四十八番

竹中成憲先生著書中素人諸君に適するもの

▲肺結核療法【總ての療法悉集めあり】　貳圓四拾五錢
▲肺結核豫防法【豫防攝生の方法を示す】　參錢郵券拾八枚
▲産婆學(再版)【教授受驗の目的に適す】　同　參拾枚
▲ペスト(黑死病)【原因徴候及豫防法を示す】　同　九枚
▲肥滿の療法【ふとりたる人やせる法】　同　九枚
▲救急法【怪我の急病應急の手當】　同　拾貳枚
▲衞生寶典【内科諸病を一々説明す】　同　廿六枚

(皆郵税共)

東京市本郷區春木町貳丁目　半田屋
東京湯島天神町貳丁目卅六　鳳文堂
東京市神田區鍛冶町四番地　誠之堂

高橋齒科醫院

東京日本橋區本町二丁目
(電話本局千六百六番)
診察時間　午前九時ヨリ午後五時迄

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號

七十錢(黑檢箱入 送費九錢)

六十錢(桐箱入 送費六錢)

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて
へし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へとも
とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雑誌の
遞を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は
會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會
ても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候
雑誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會
會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事
所々在の郵便局(東京牛込築土八幡町郵便
べし●會費受領證を要する節は送費とし
封入せられたし●轉居せられたるときは
會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候節は
會雜誌進呈

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三　田中

明治三十八年八月二十二日印刷